

安齋漫筆

五

73  
6625  
5



門 73  
號 6645  
卷 5



齊漫筆卷之五

臺圖

一鏡枕圖

惟圖

一鏡臺羅江圖

一鏡裏圖

一鏡臺鏡懸久圖

一鏡管圖

一冠管圖

一唐匣圖

一尺袋圖

一表筵圖

一龍髻地敷圖

一唐錦茵圖

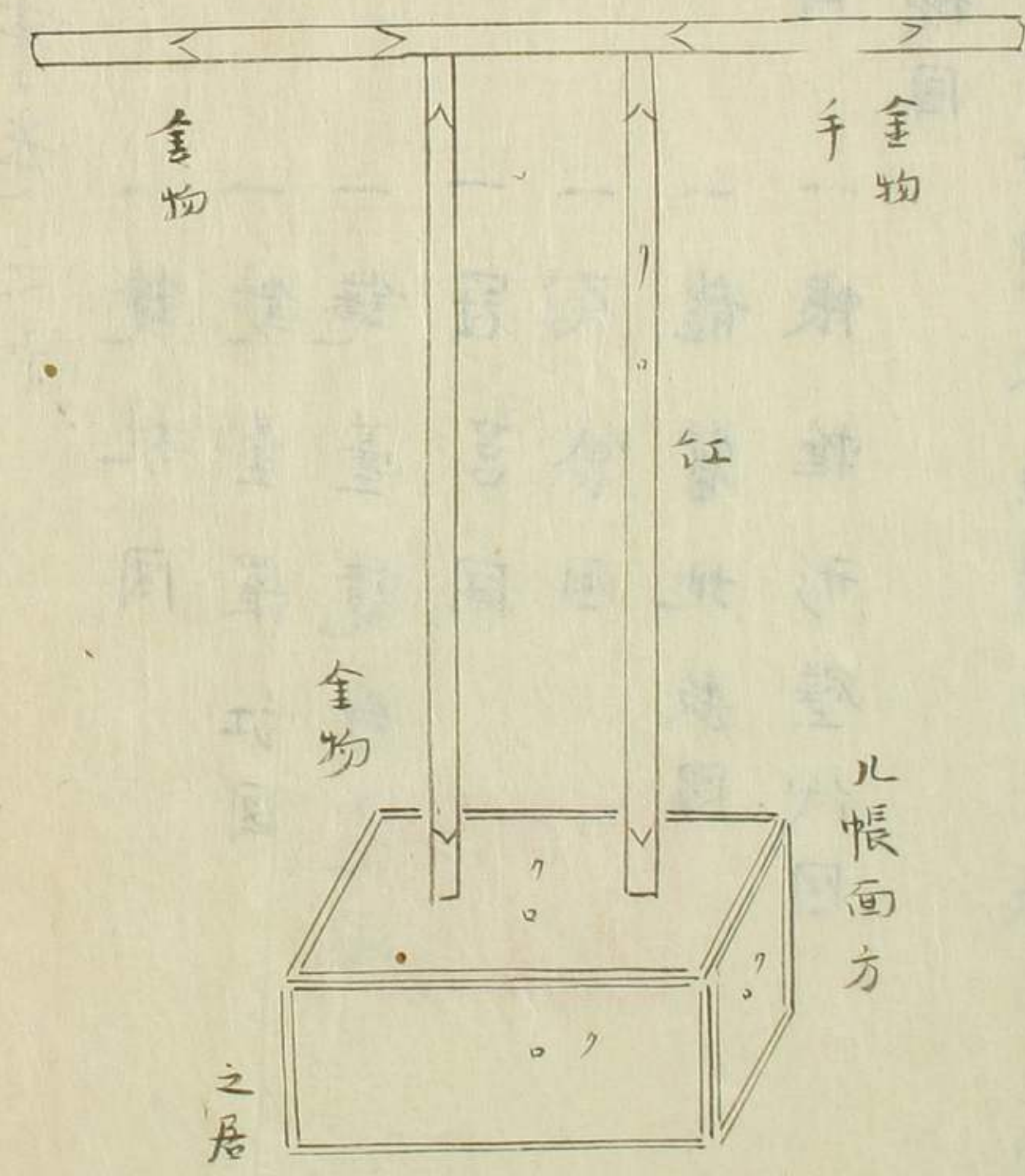
一帳帷形壁代圖

一帳懸帷樣圖

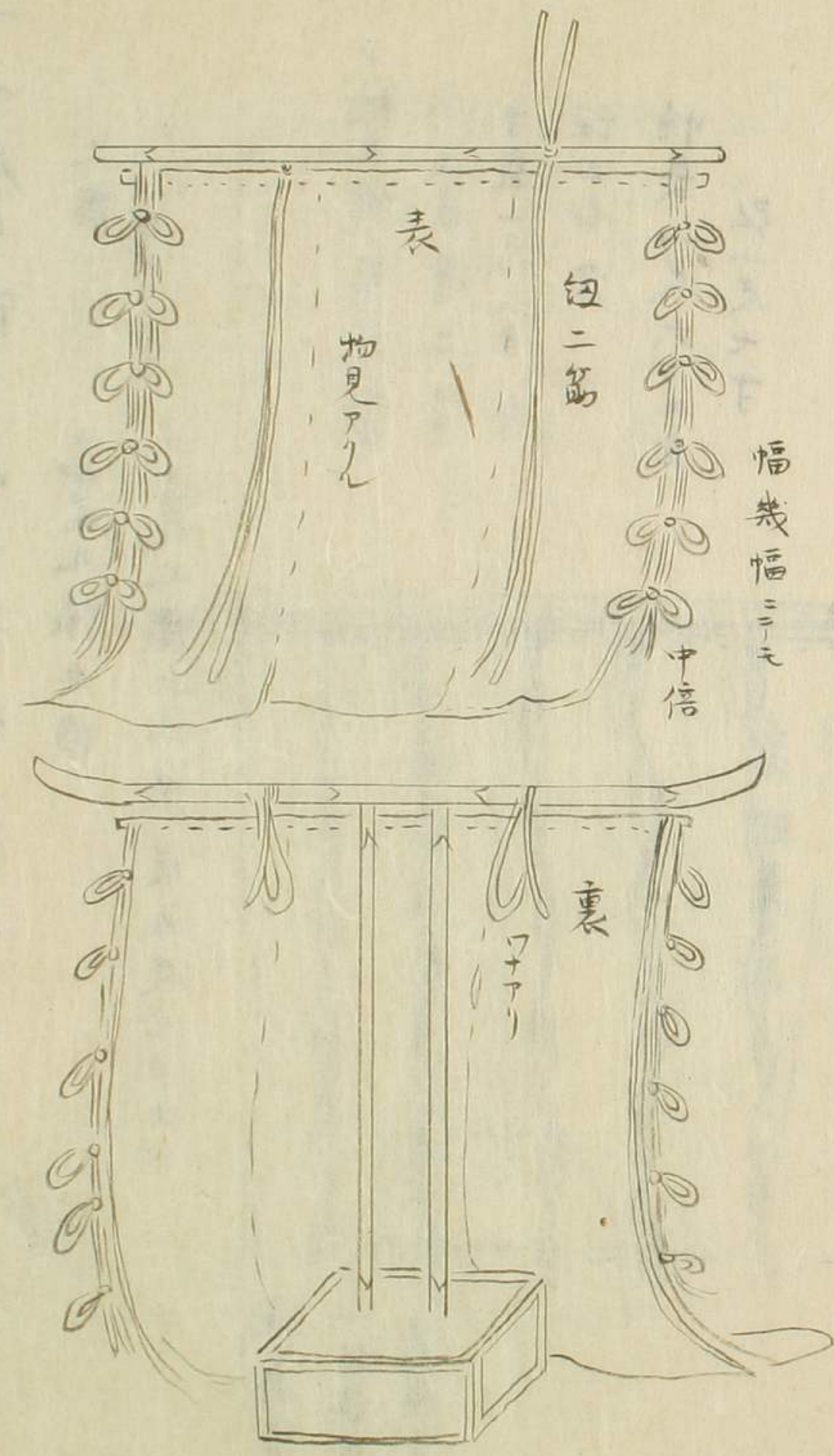
右十五條所持類聚雜用在之依本々讓而不寫

早稻田大學圖書館  
藏 26.11.5 雙  
藏 書

一几帳之臺



一几帳之帷



一四尺几帳

几帳

一本二寸五分

○惟長六尺紐大帷料一尺二丈五尺

○四尺几帳五幅

○三尺几帳四幅帳長五尺三寸五分

面  
襖

一倍織物

裏  
襖

○枕几帳高一尺五分

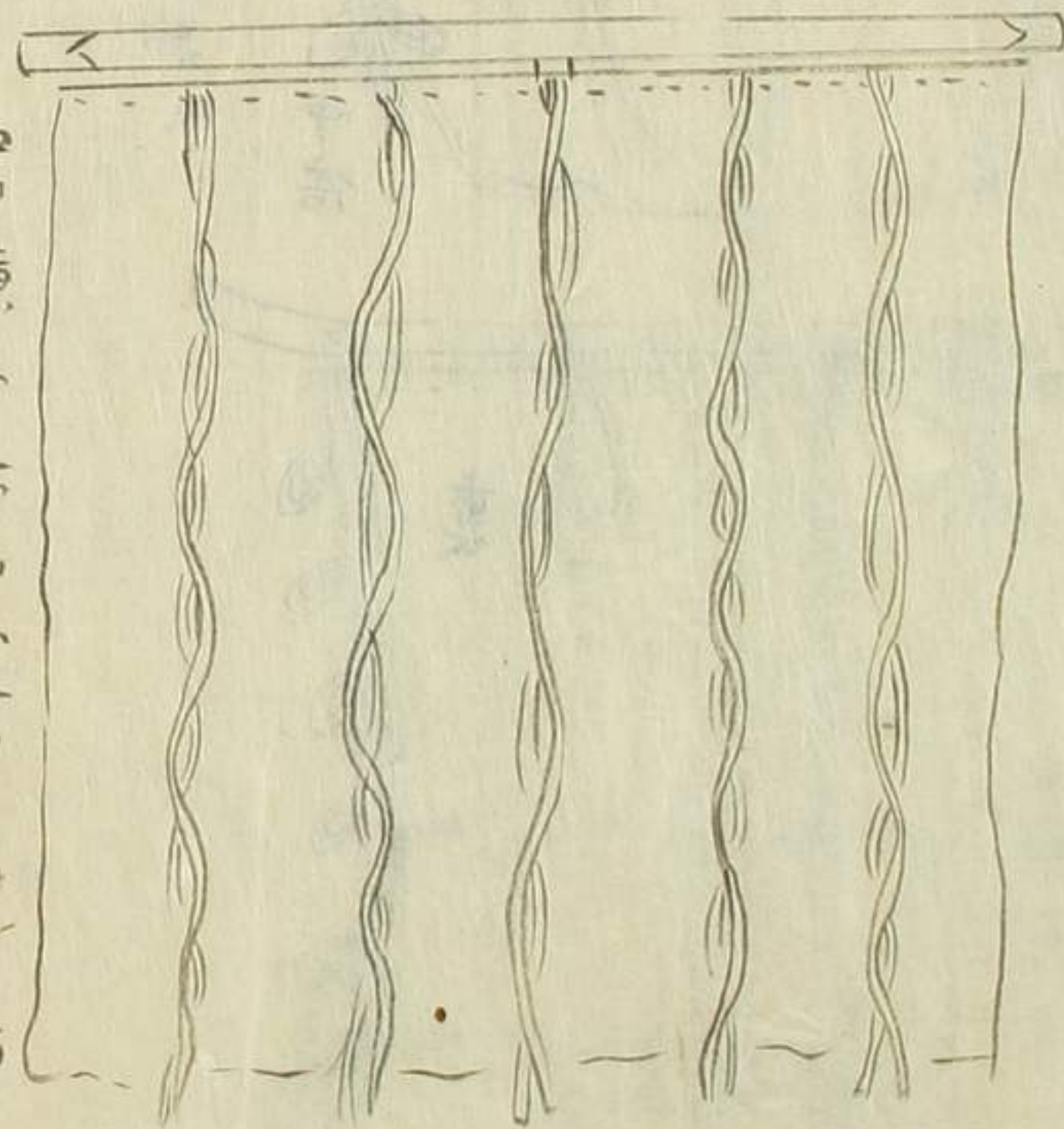
田工居厚二寸

手長一尺八寸手

徑五分余

帷長一尺六寸五分

弘一尺七寸

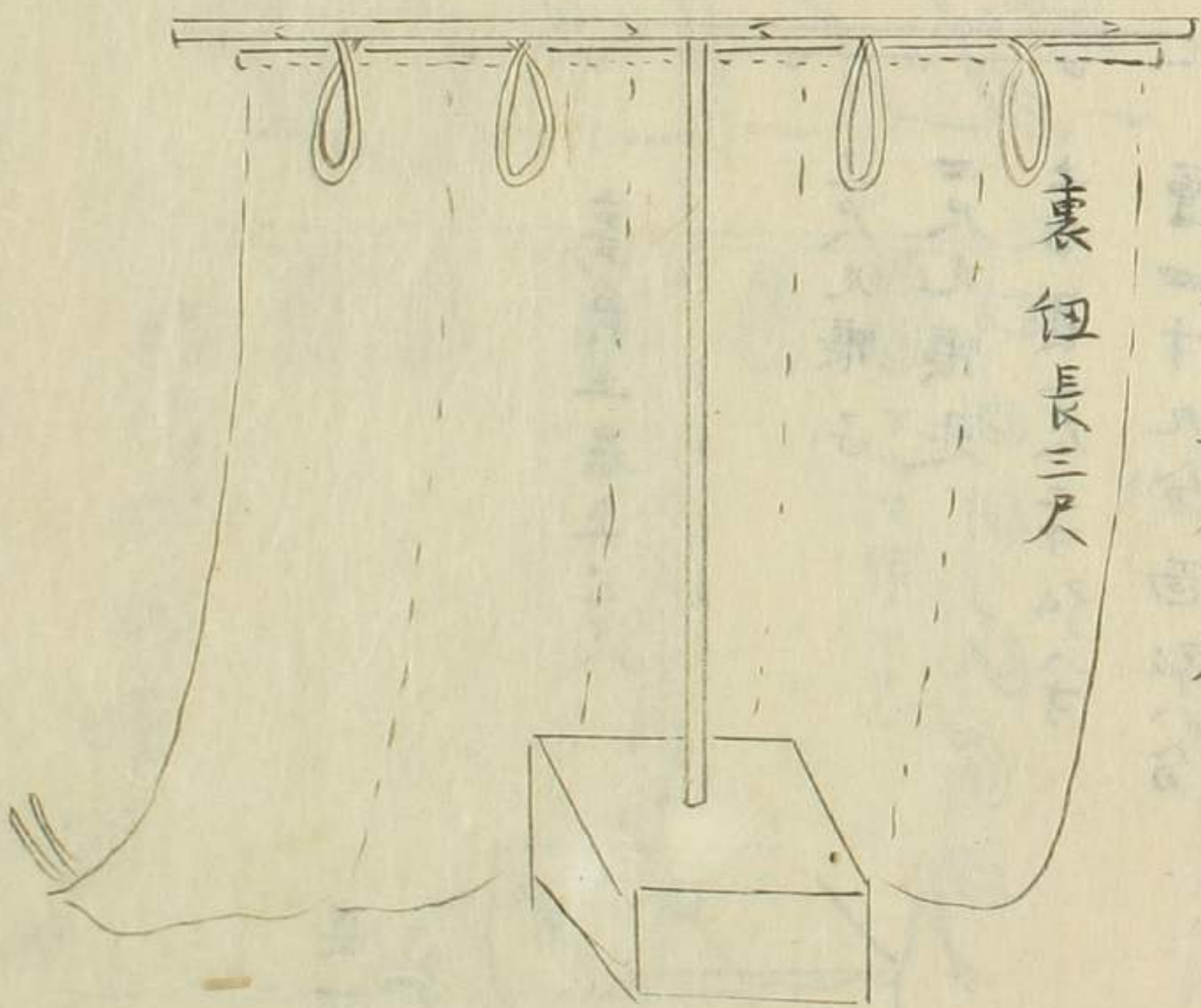


和曰横木ノ下ニツホ子アリソレニ鉛口引通ス

四尺几帳裏

四尺自土居下定

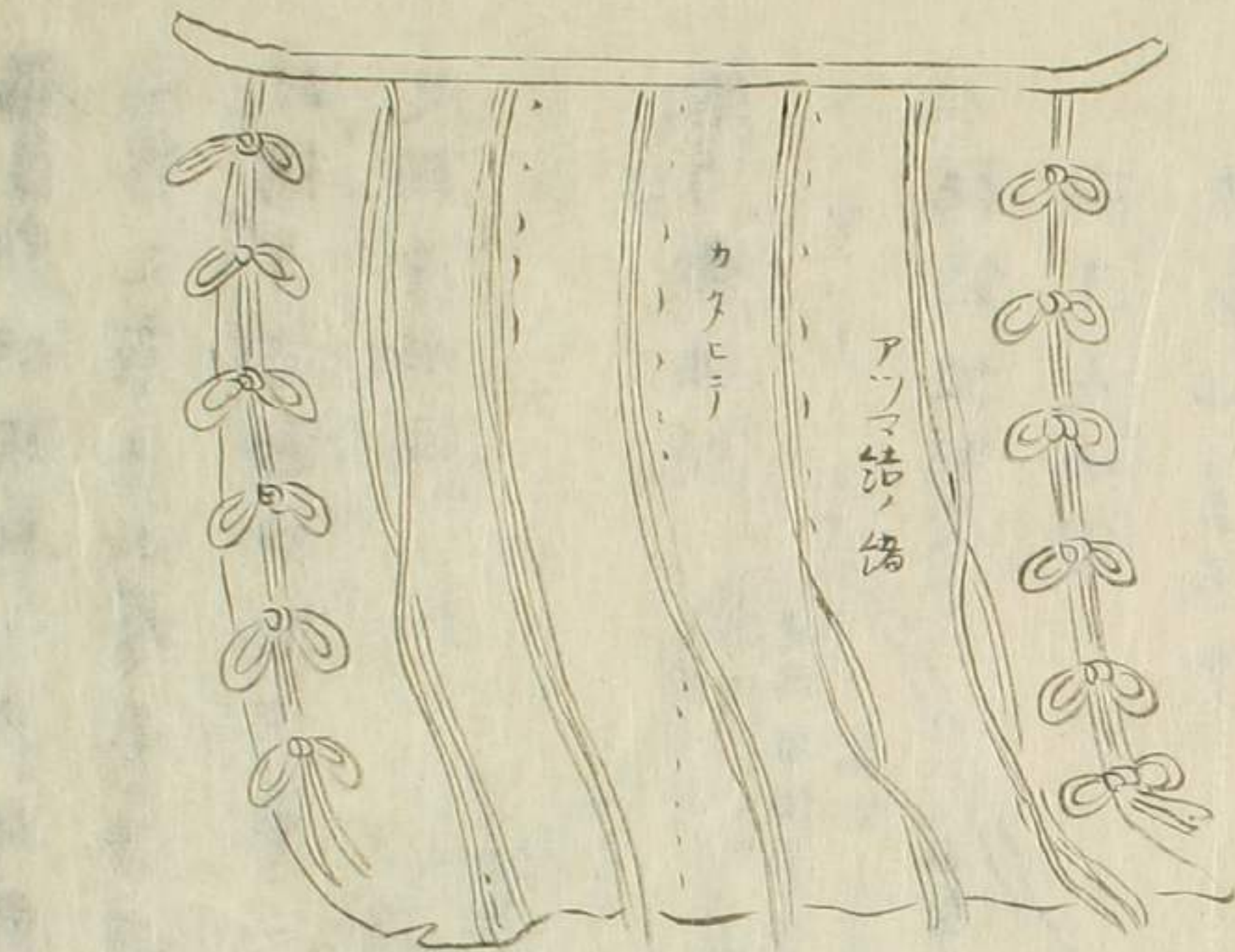
裏紐長三尺



唯夏白生指以白  
泥野篠秋叶木書  
之

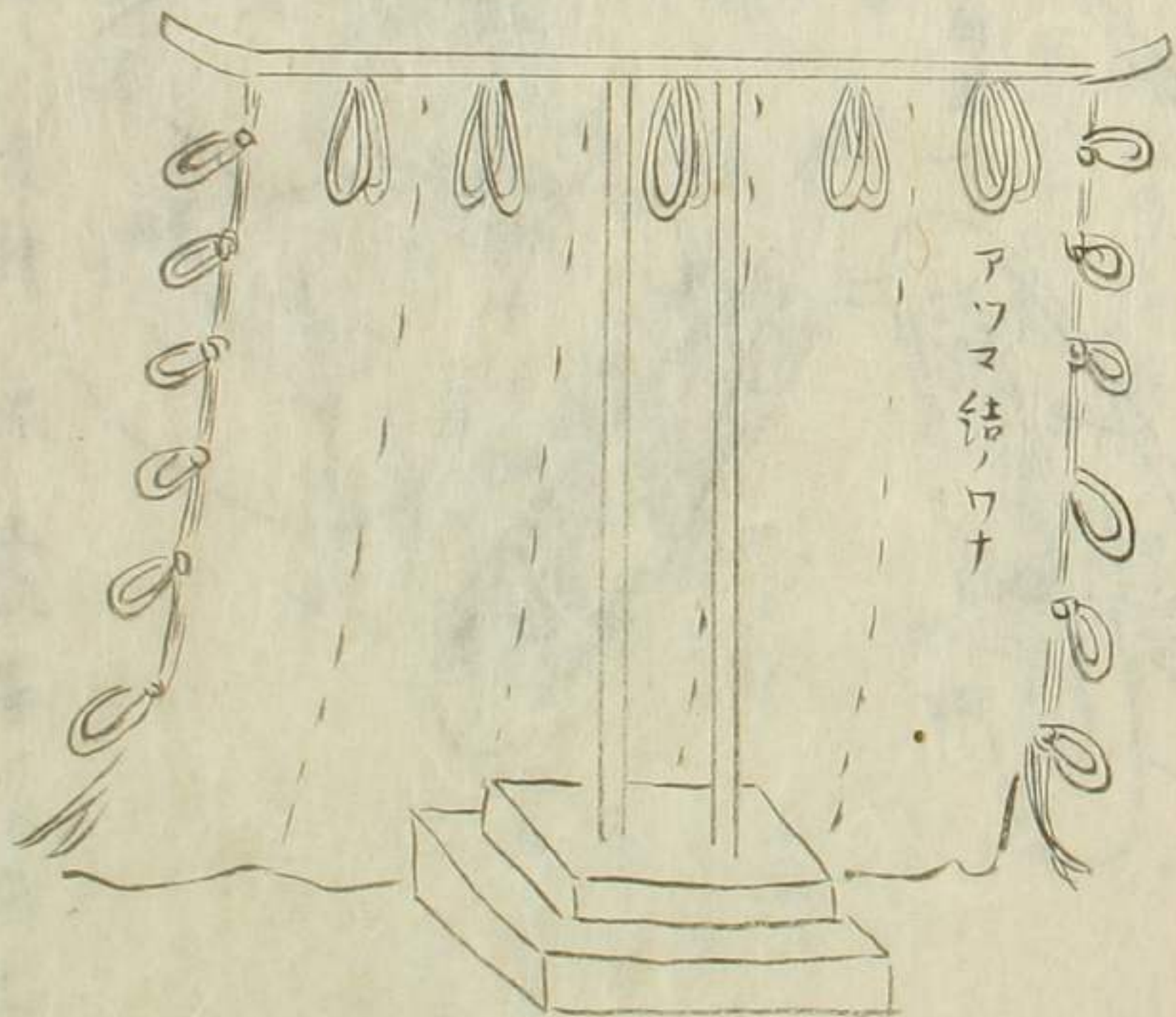
又檜胡粉用之凡  
裏白粉張之  
紐冬濃赤物又黑  
赤夏者黒深冬  
面傾傾三又裏三  
丈五尺字深之  
右類聚雜要鈔見

一 几帳表紐結アゲマキ



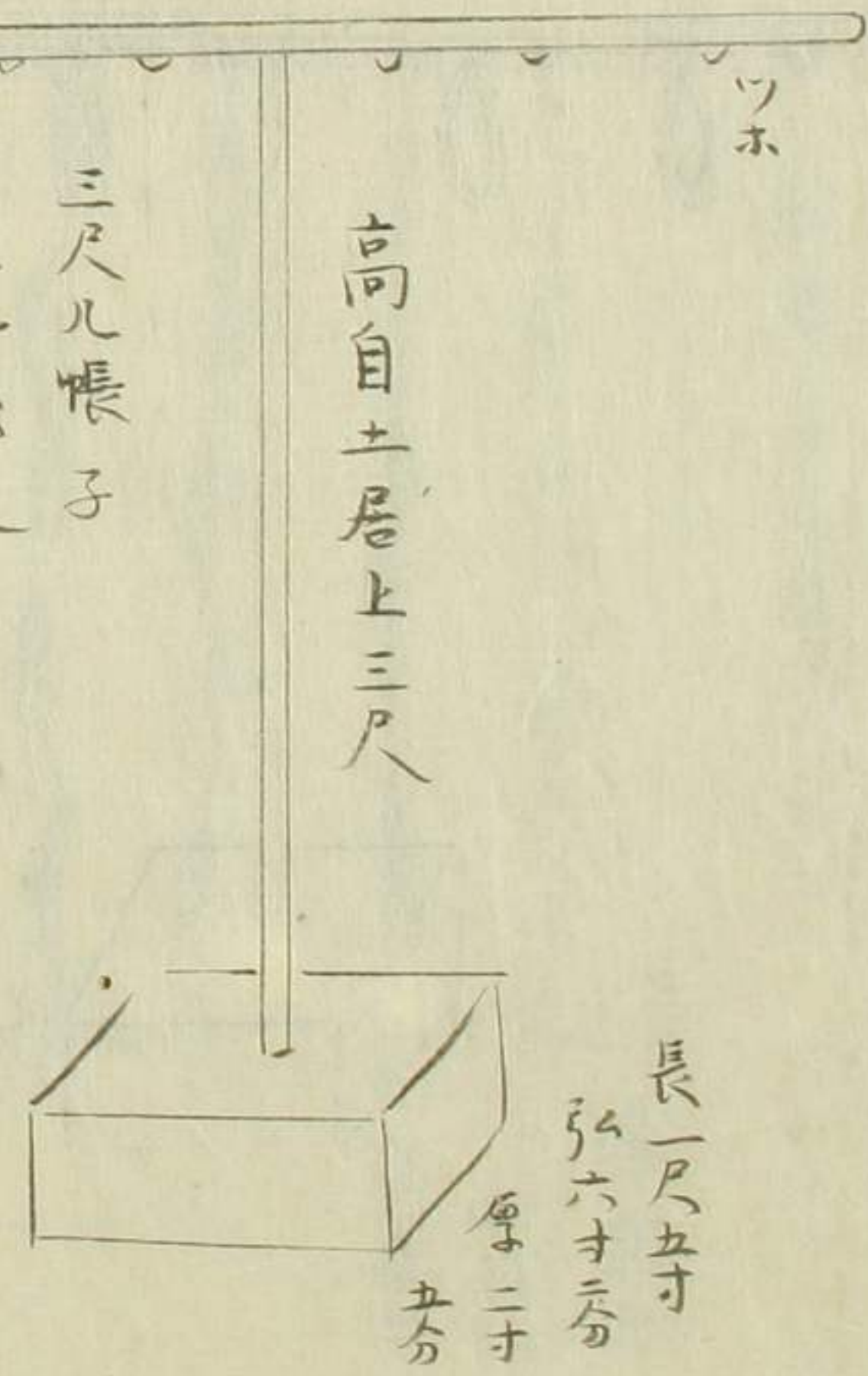
同裏

夏カウヒラ地白生指表裏  
銀泥ニテ秋野ノドカリ



高自土居上三尺

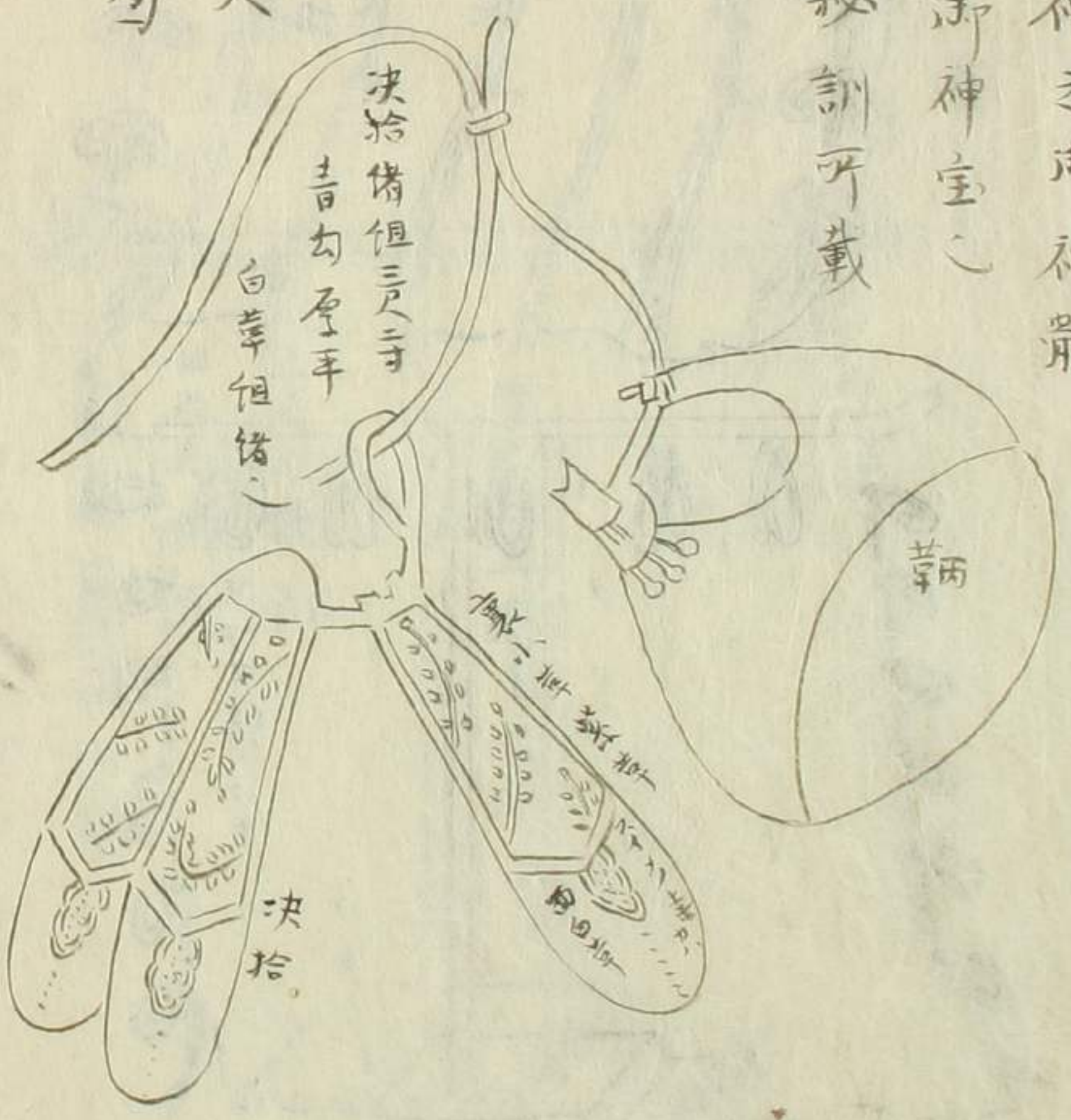
三尺几帳子  
四尺几帳是  
土居長一尺二寸弘八寸  
厚四寸九分面弘八分



備後國鞆明神之御神體  
 之寫之或云御神宝之  
 此因与吉部秘訓所載  
 之因全相同

一 鞆弓懸本様

鞆楯四尺  
 二 廿花田勾  
 彈草之



一 女佐光長 兼 年中

或云ココモノ花ハ所ノホノ如シ  
 白シ実ハナシモココシニ似タリ  
 ト云コモトマコモト差別アルカ  
 可尋

負夫按古今集卷廿四

みらのこれあはれあはれあはれあはれ  
 うつたふくよとよやうとよ

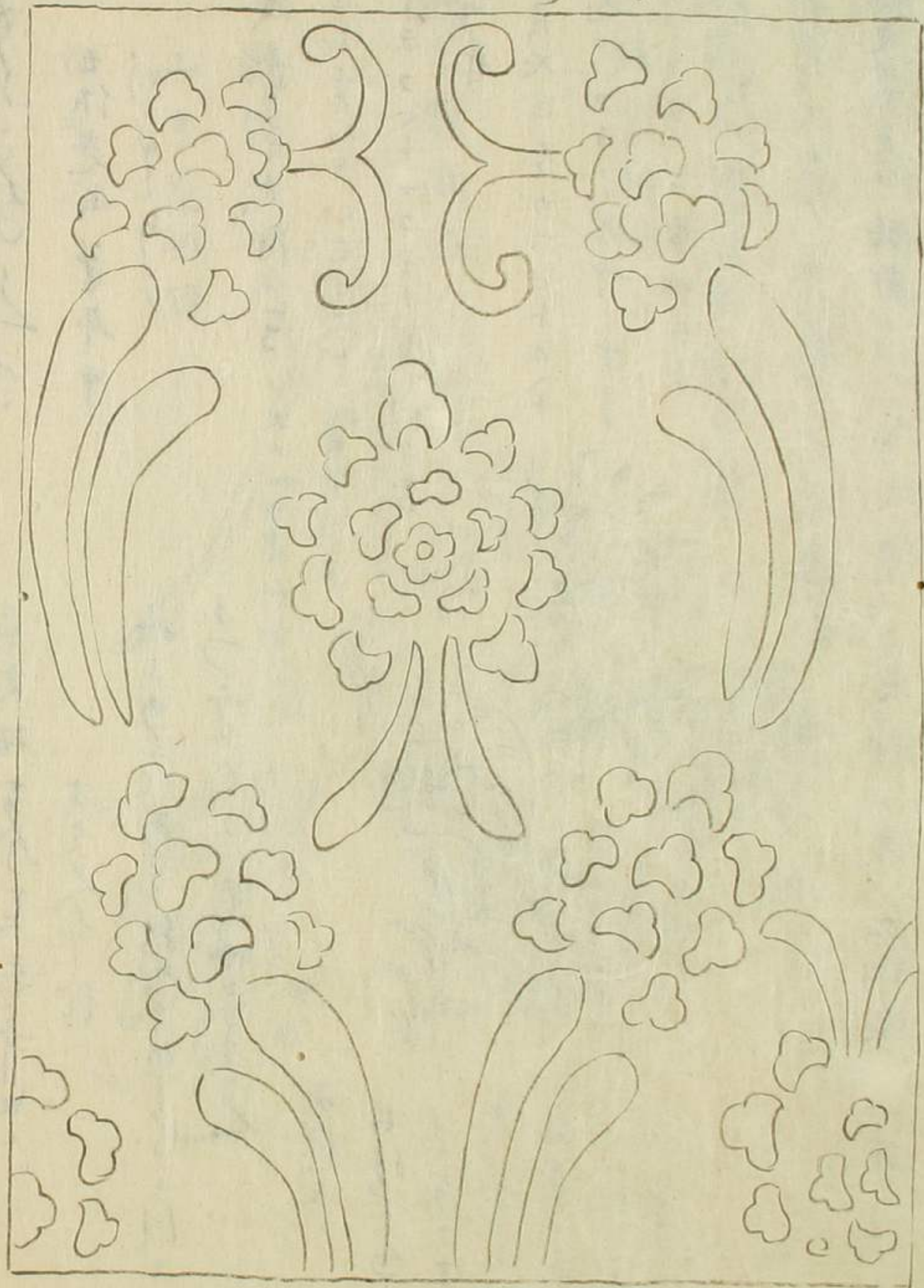
負夫云花カワミト云ヘト  
 花ニハアラテ浮州ノ葉ミテ  
 ハアラカレカ葉四ツ出テ  
 花ノ形ニ位アリ



此文装束ノ諸砂等ハ曾テ見ヘス天神ノ像土佐家ニテ用之

或云  
 女侍  
 花ノ  
 孤妻  
 の  
 と  
 三

唐 州 有 輪  
高 夢  
草 子

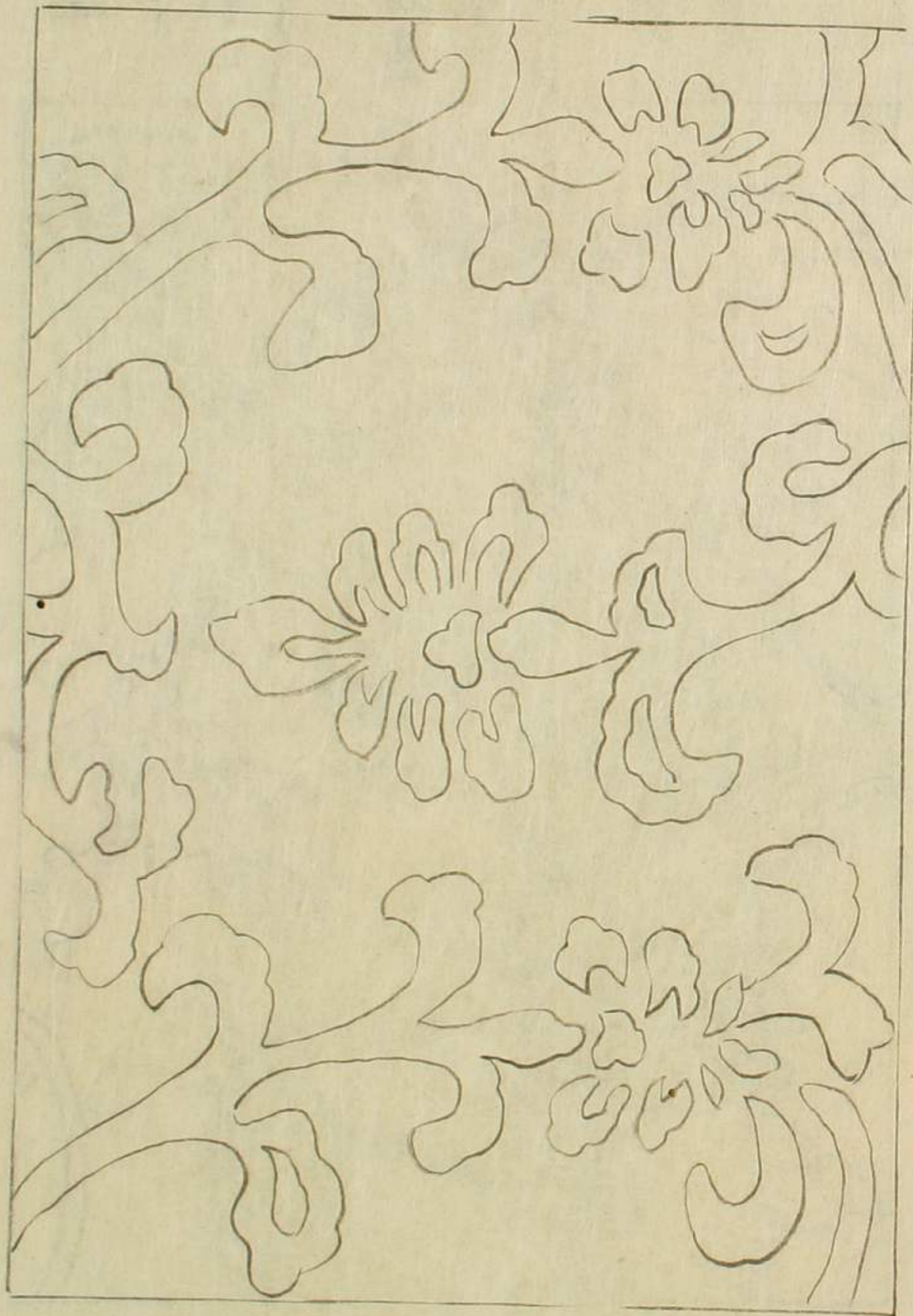


梁 塵 愚 抄 其 弱

この物もあまの草の一種なり

唐 州 有 輪

この草もあまの草の一種なり



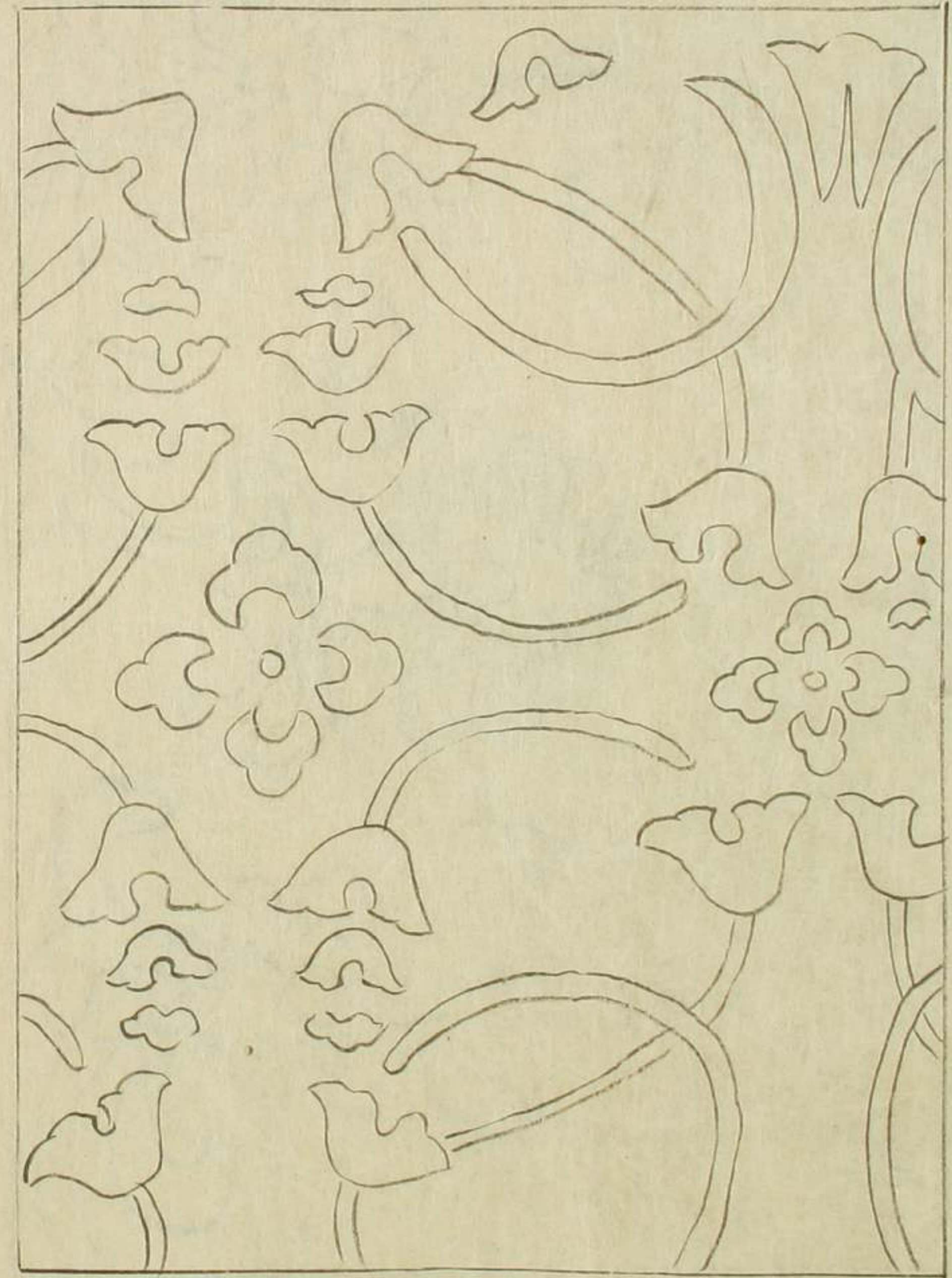
輪違

俗ニ是ヲ

無輪ト云

菱葉蔓

延白



麴塵

山鳩色ト云

又云色子

雁水

偉夷

紋スキノ糸ニテ

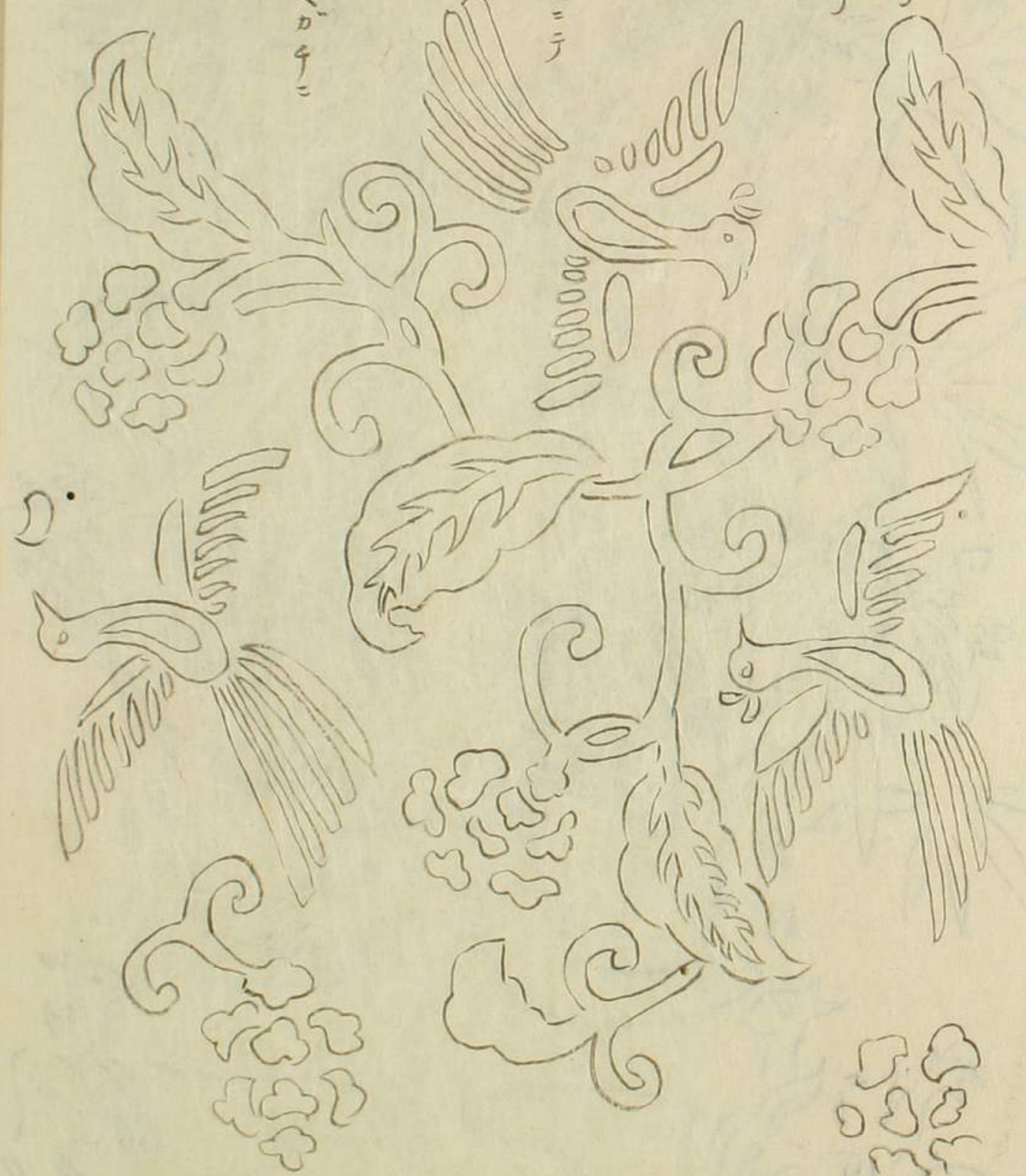
出シテ色

ニテ像ナリ

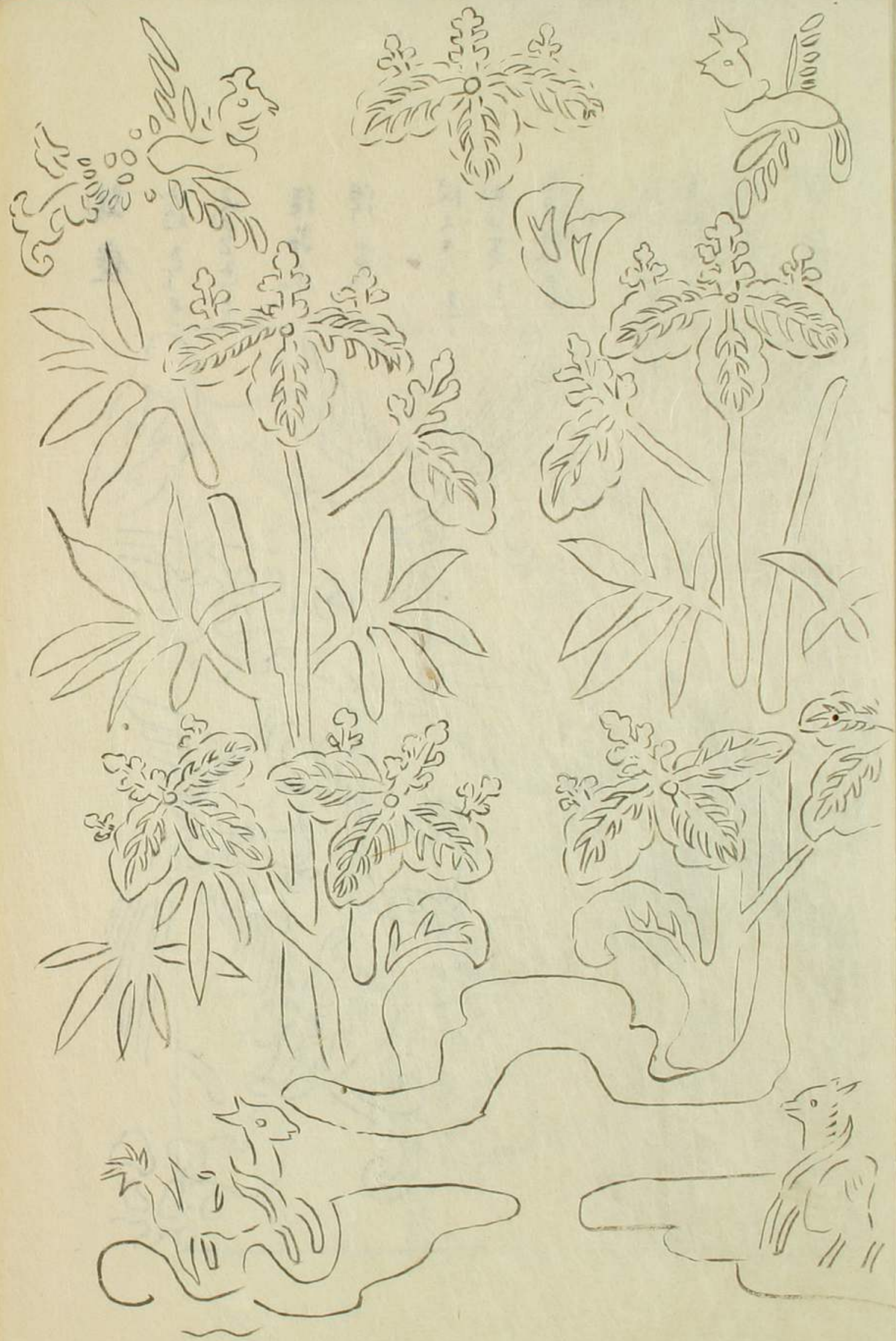
アリ

あまのこまかぢニ

ワクル







黄極深

深色ニルチヤノハケタルカ如シ

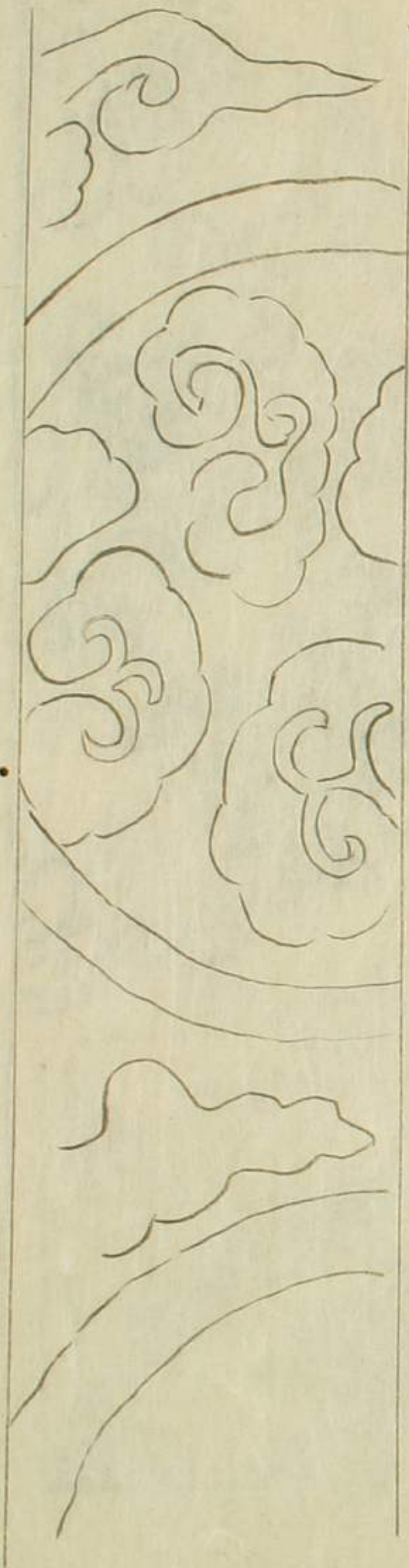
御紋桐竹鳳麟

所袖ノサカリニニツキ後ハ  
竹ノ葉好キニハツキ福ニハツ

雲立偏ノ袍

クモタテワキ タテ侍者ヌキ白

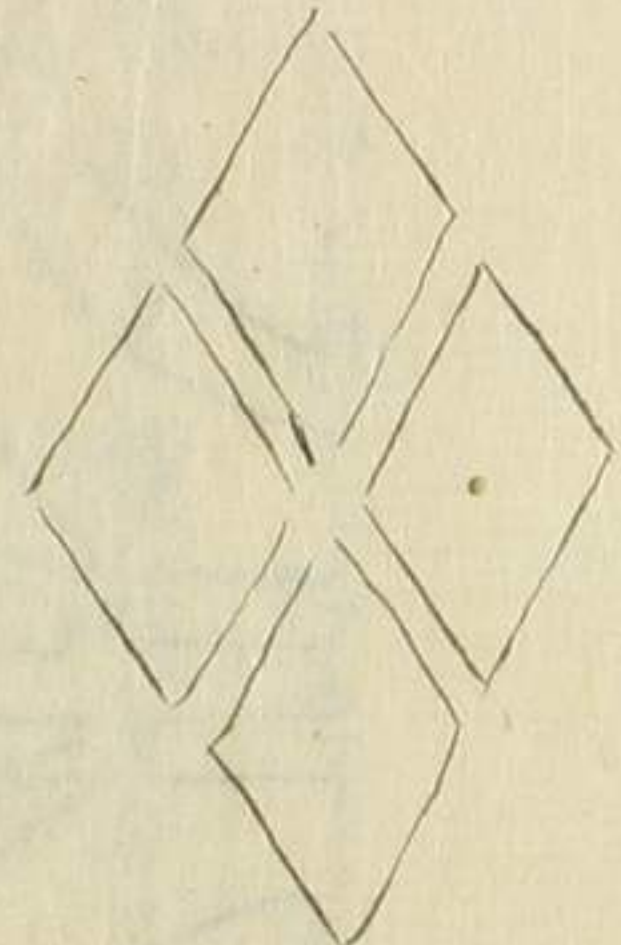
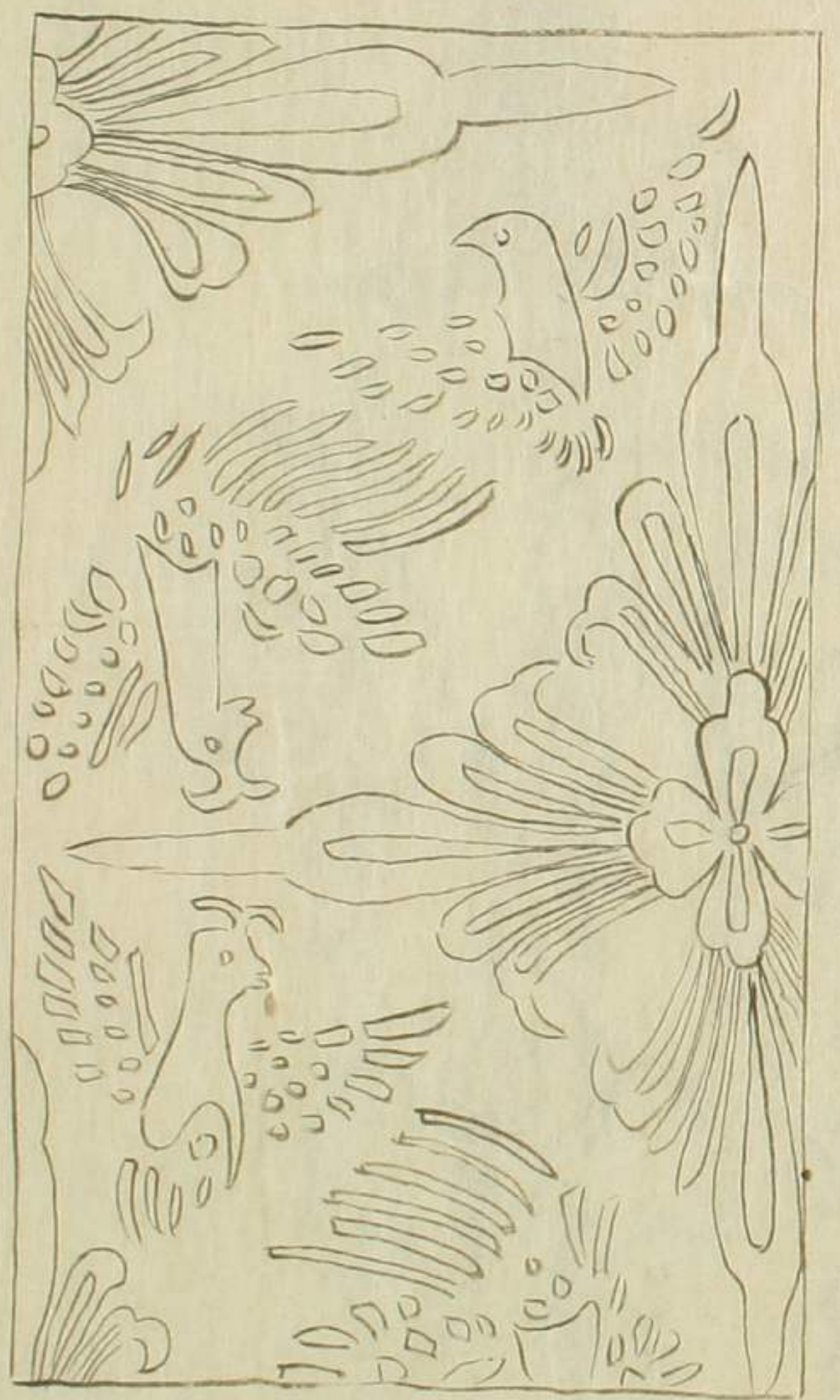
笠文入キノ糸ニテ出ス



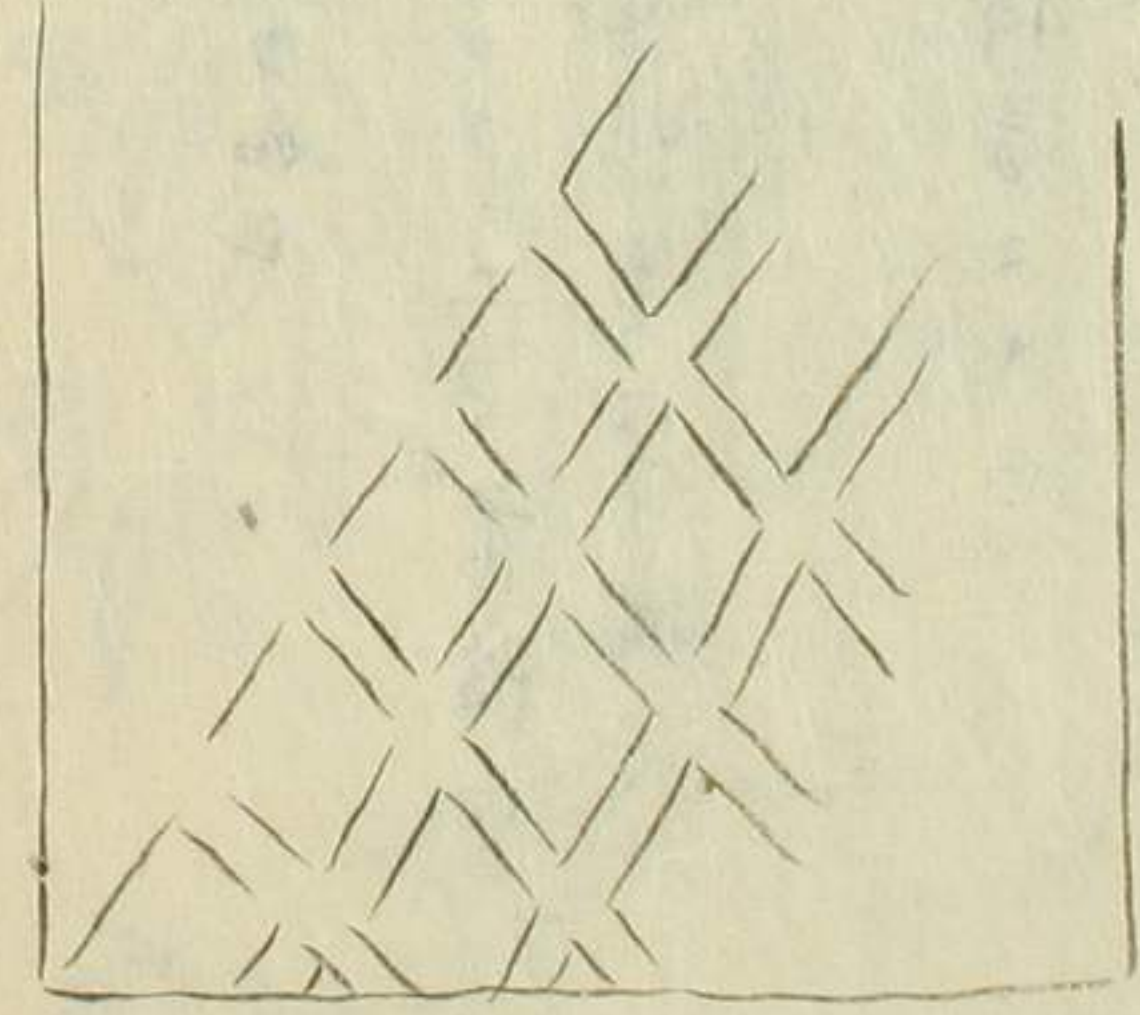
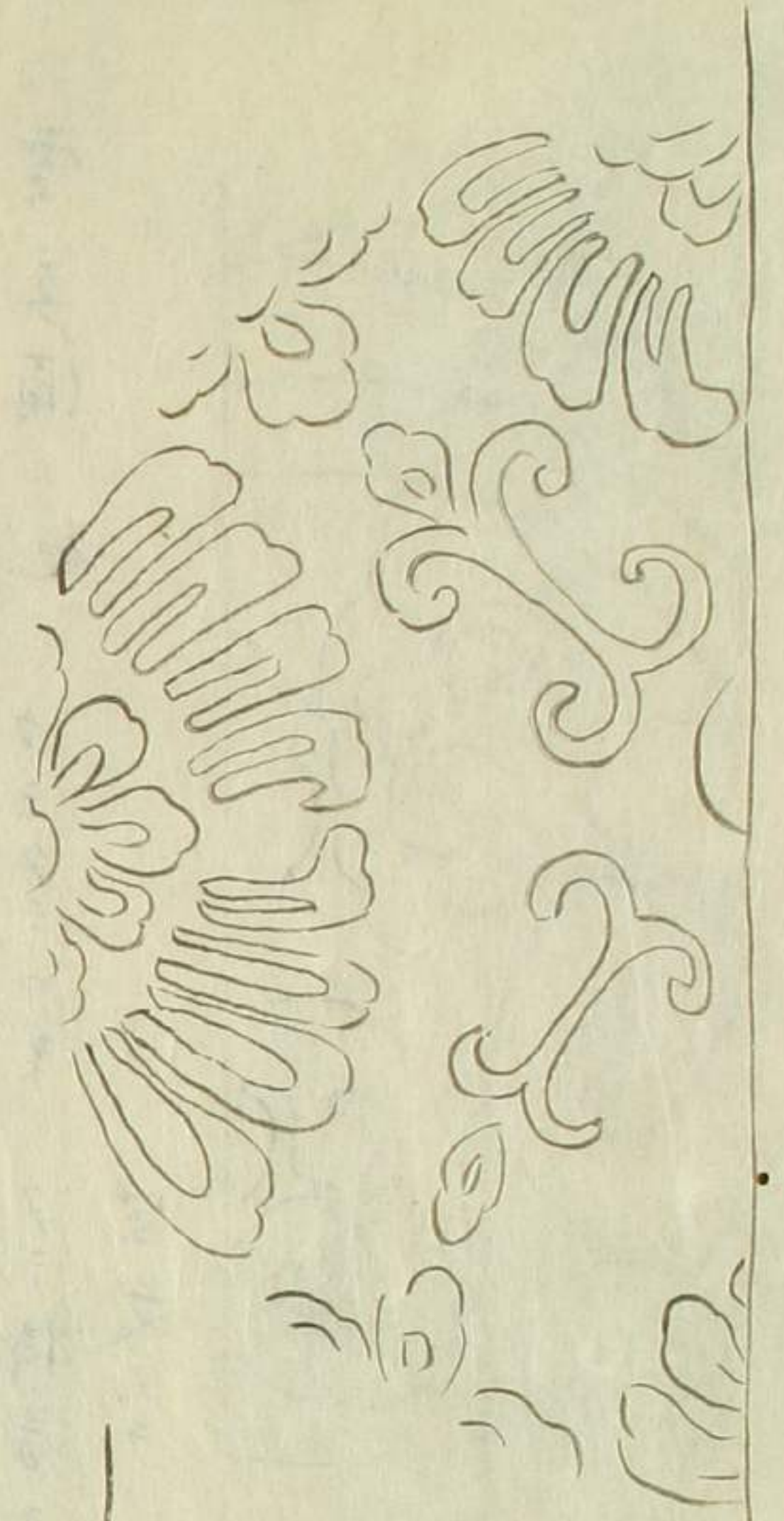
トラヒシ

トリタスキ  
鳥橋扱也

タテは茶  
スキ白  
ヌキテタ紋ヲ  
出スウキ文

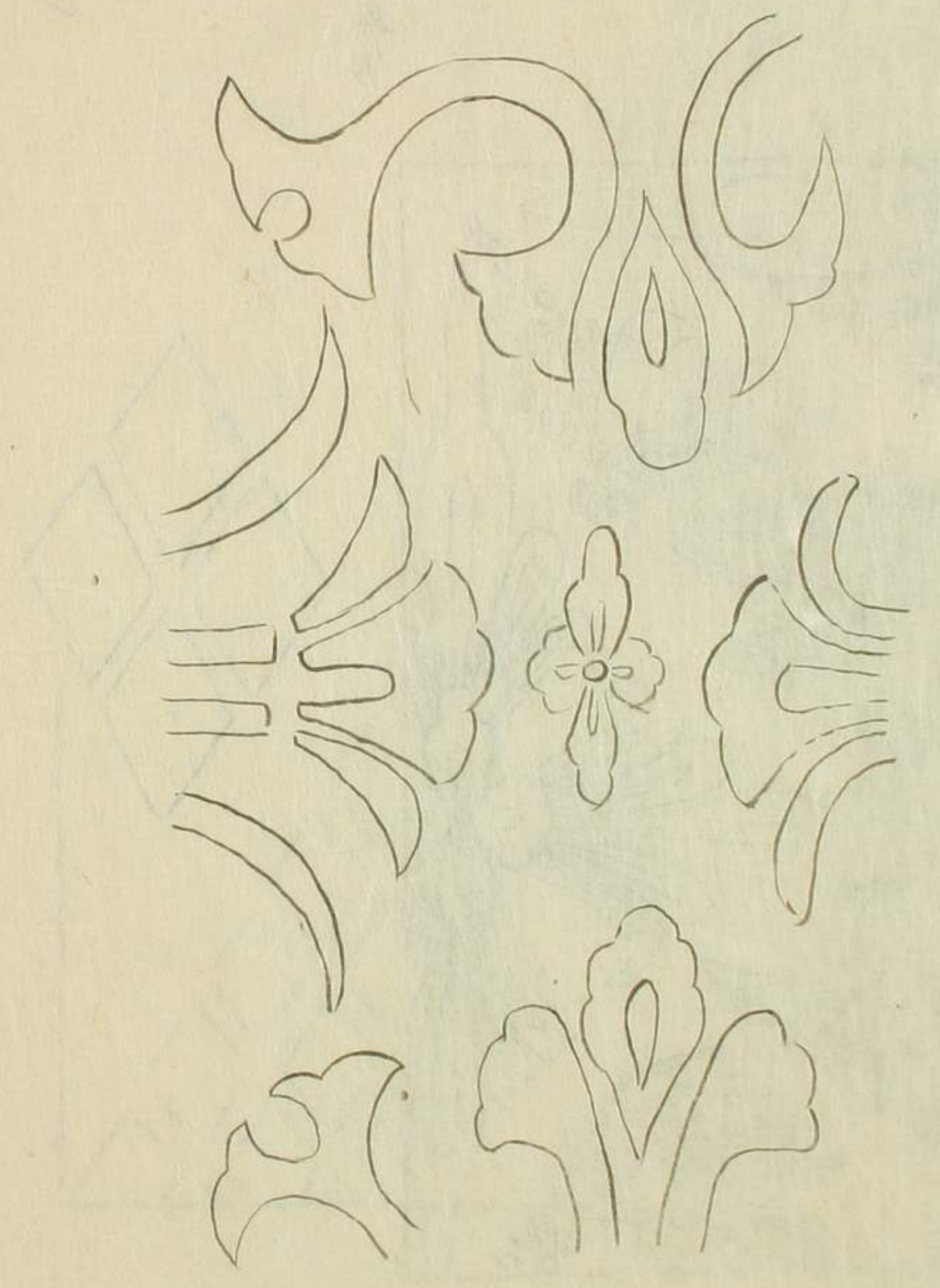


フセシヤウ



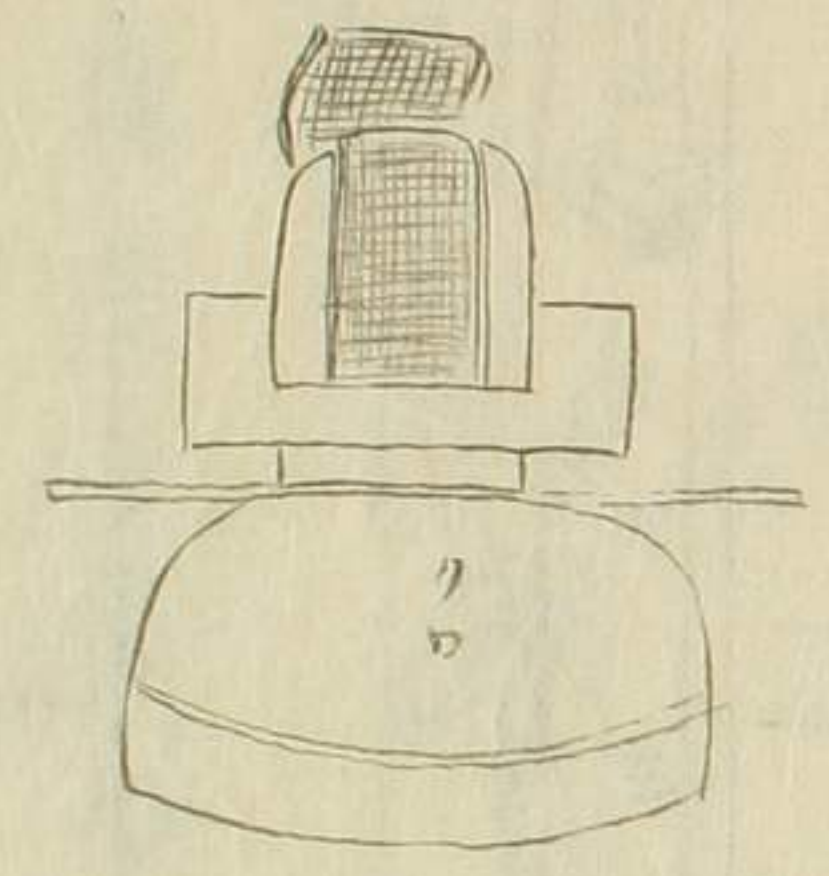
今中子所冠

黒或赤



今中子所冠

如图係ハ中子少と裁て珍也も又ハ只上(上)して区も  
下(下)もあり揃紙と揃紙と合て両面今(今)と押(押)て

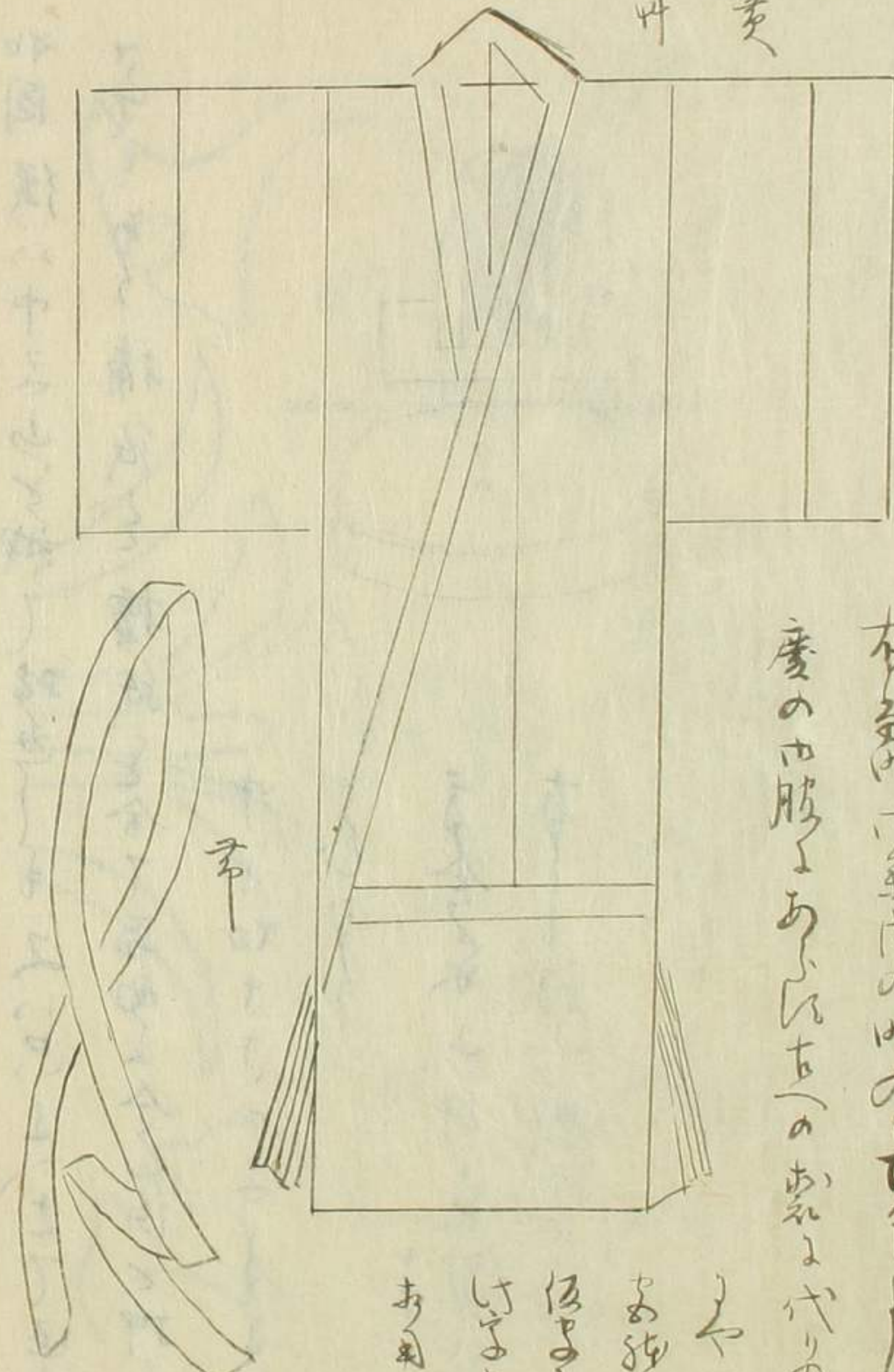


中と切(切)さき中子(中子)もも  
さ(さ)むら(むら)り  
今(今)中子(中子)少(少)科(科)表(表)可(可)及(及)ぬ  
有(有)り(り)し(し)ぬ(ぬ)り(り)

一 袷代

タイ 伍ト云々

地 淺黄  
紋 五州



はるばる之 毛如法門 既方之月  
有る時 少少内 内 竹の 毛 一  
度 の内 腋 あり 五 五 五 代りの 毛

お 細  
は 子  
け 子  
あ 用

一 眉 尖 刀



右 足 于 海 武 令 書 以 上 年 威 繼 之 武 任 總  
要 器 械 篇

一 中華一ノ者同

白メノ人

明 朝



清 朝

今 中 華 皆 同  
千 此 鞋 鞵 同

此 髪 ハ 四 角 割  
中 心 シ 結 シ ミ 三 本  
紐 テ 後 ヘ サ ケ 武 刀 カ  
子 タ ル モ ア リ



トシ  
東 京

女南ト云々此四の儀名  
文趾  
一圓の巻名

衣服今ノ唐人の祇トハ  
別ナリ明朝の時の形也

本ハ文趾の都ナリ  
此代ハ合ヒテ二ツナリ

女南

人の形を思フ  
此の形ハ男子  
ノ似テガク唐令  
ノ衣ナリト云々  
乃々女人ハ思ハ  
ル女ノ似テガク  
ナルハ甚道一  
歩ナリト云々必  
至ト云々



東京月額ナリ髪と衣ハ此代ノ月額  
ナリト云々ト云ハ文趾ト云々

紅毛人

色白ク髪  
赤ク短シ鼻  
高ク腹中ハ白  
クト云々腹ハ  
毛織ノ衣ト云  
々ト云々髪は  
ト云々髪と  
云々ト云々



石城 大泥  
 暹羅 等口

南空の門

東浦案

トシホウチヤアホ  
 ウチヤ

天竺

寫まある者も  
 得くし胸よつた  
 傍花布まを括て  
 至鞋とこま夜  
 空とまてあかり

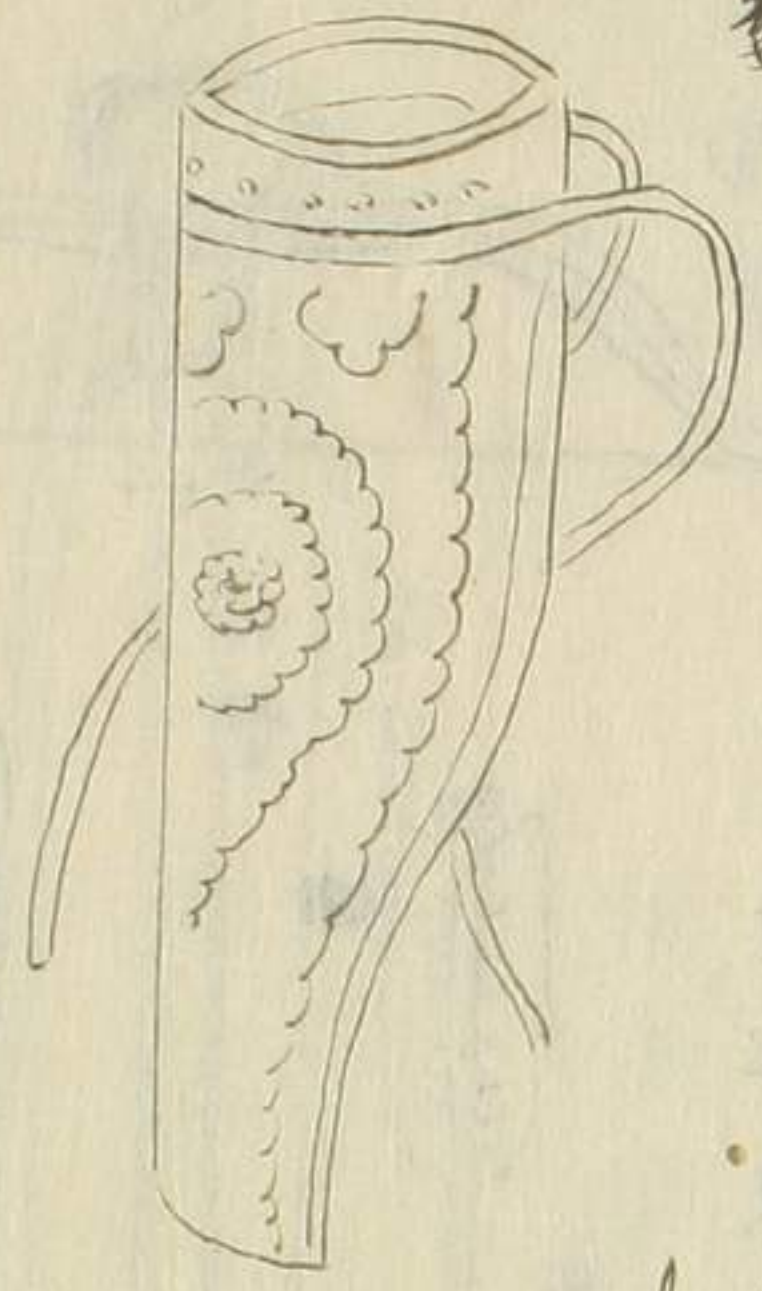
その得くし胸よつた本流の傍花布のまを括て  
 至鞋とこま夜空とまてあかり



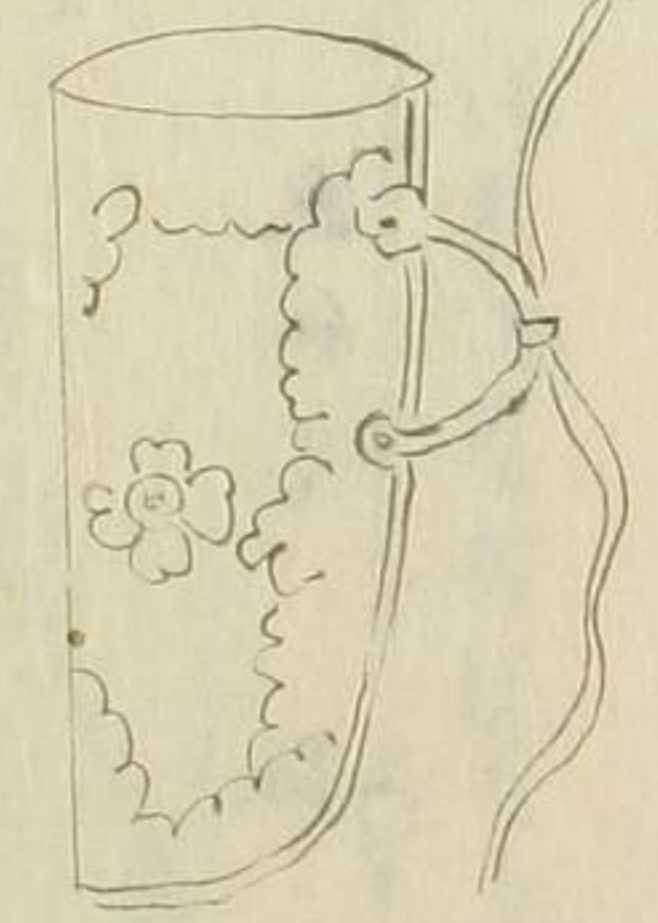
執四



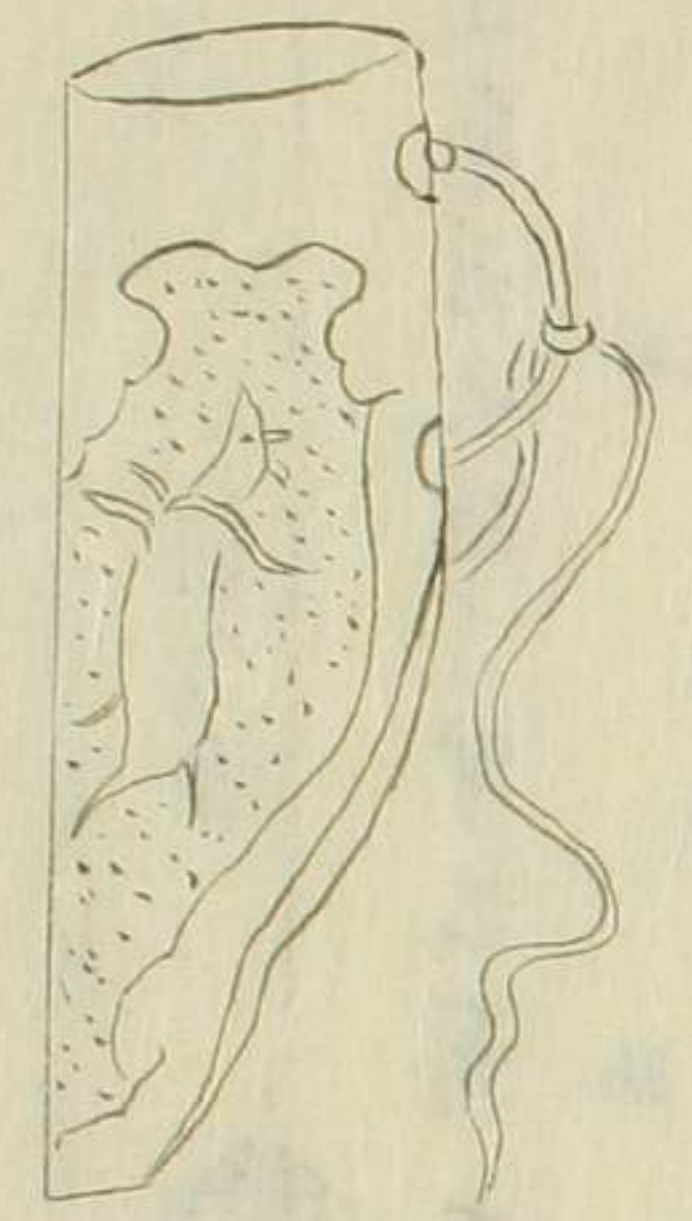
弓敷



弓糸胡差

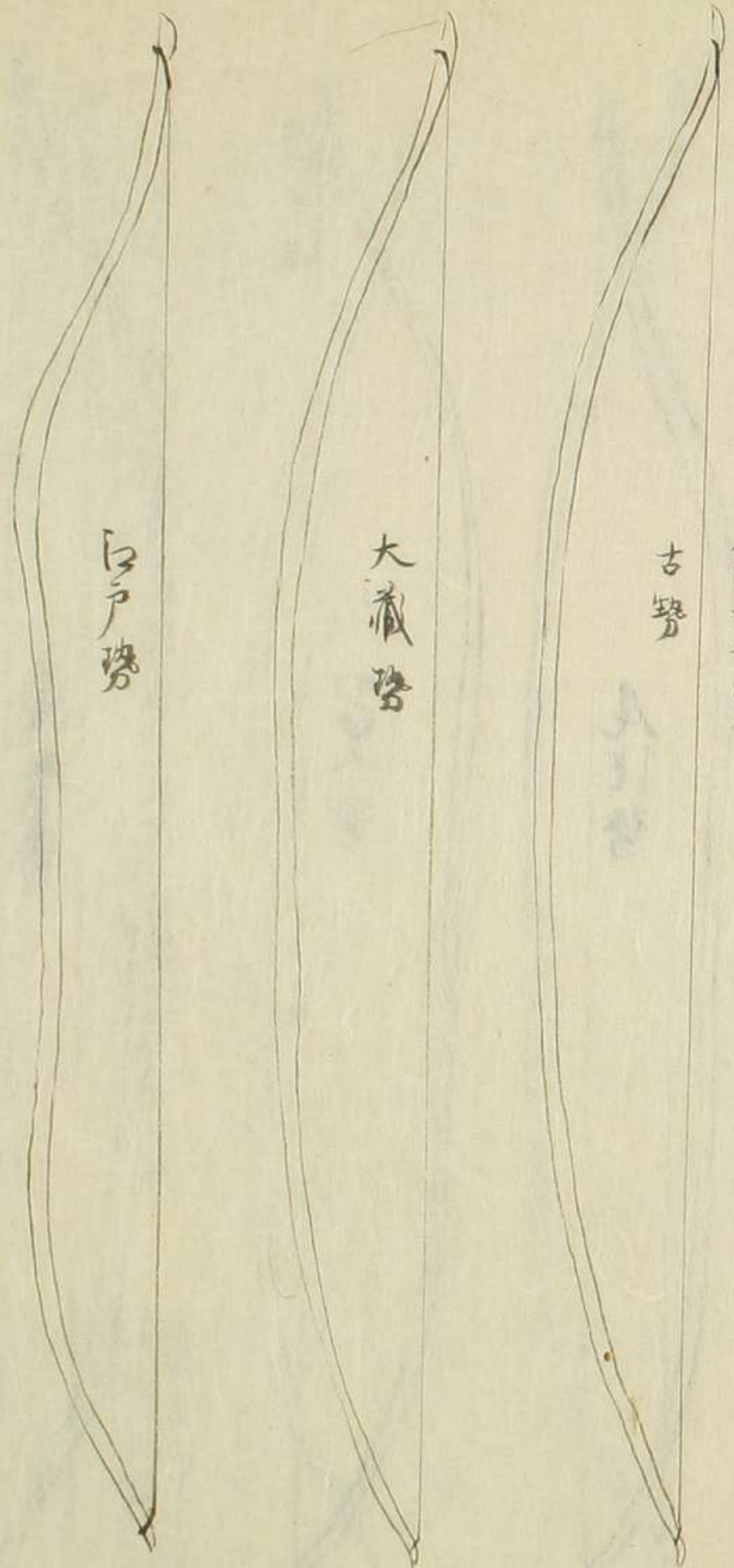


弓袋



弓糸胡差

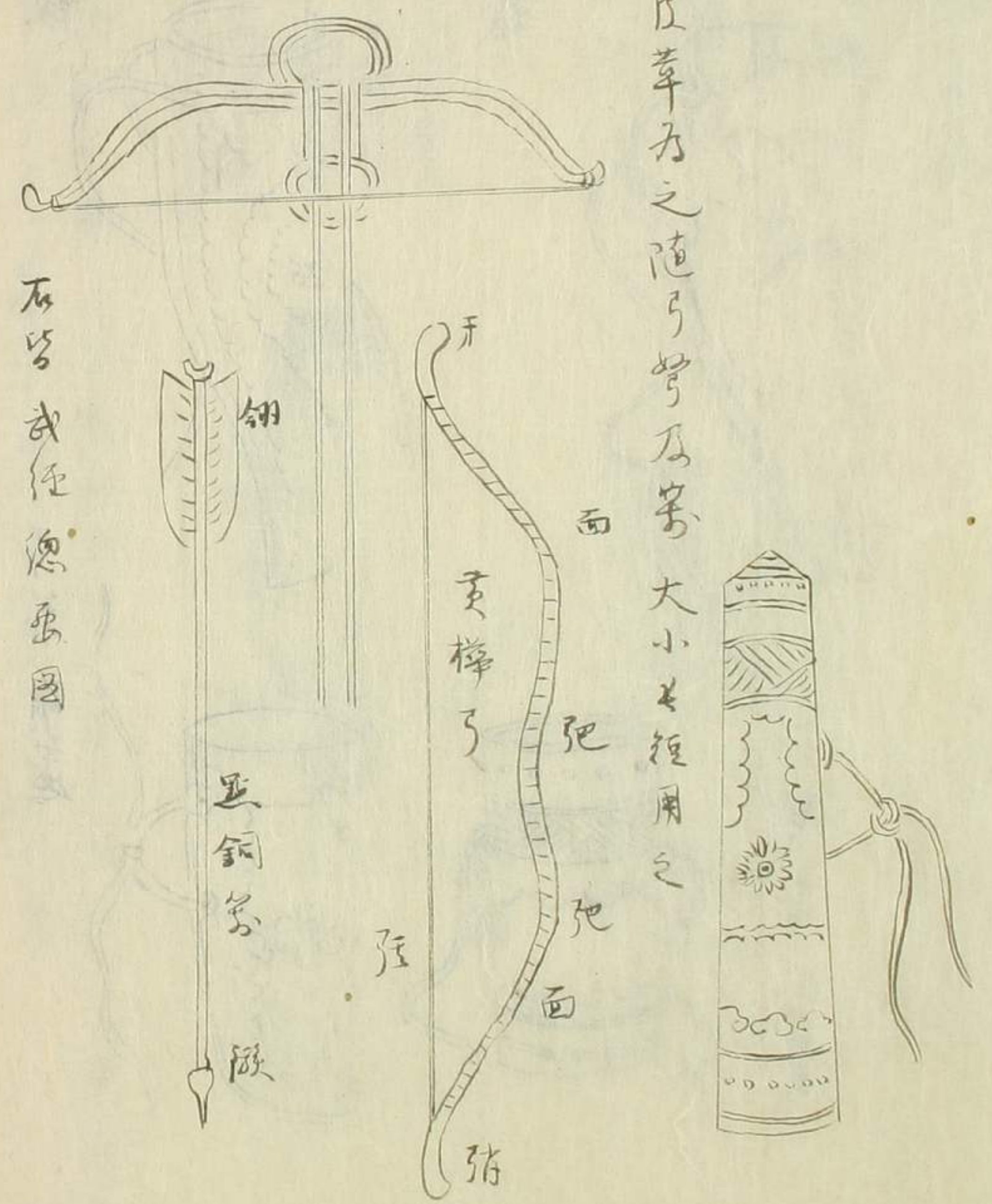




一弓の形略

廣州河市他用射器弓

弓漆墨



大以皮革為之隨弓弩及箭大小皆徑用之

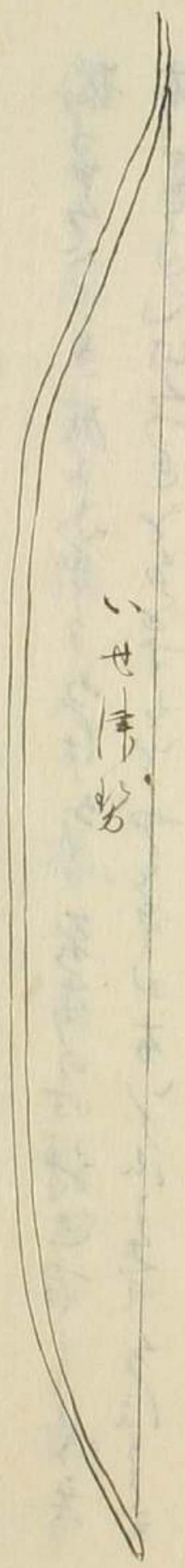
石弓或徑總要圖



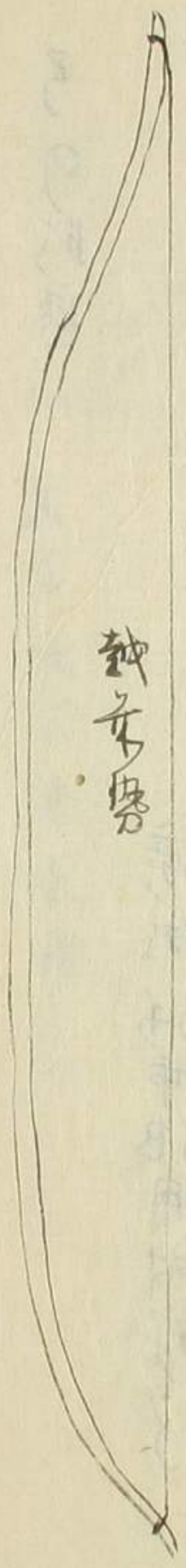
Handwritten notes in Arabic script, including a large bracketed section on the left and smaller sections on the right.



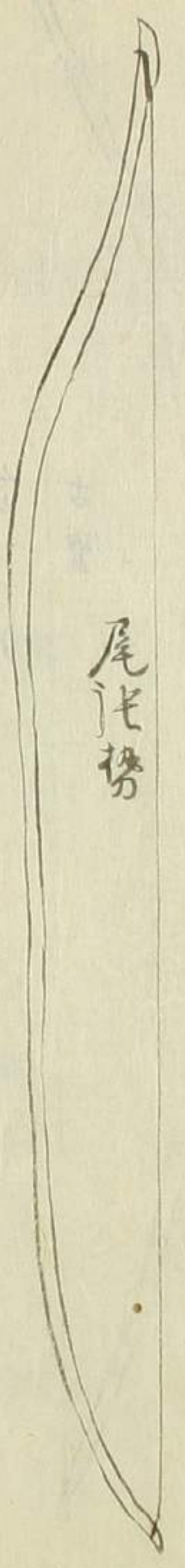
Handwritten label in Arabic script, possibly 'الحلقة' (Al-Halqa).



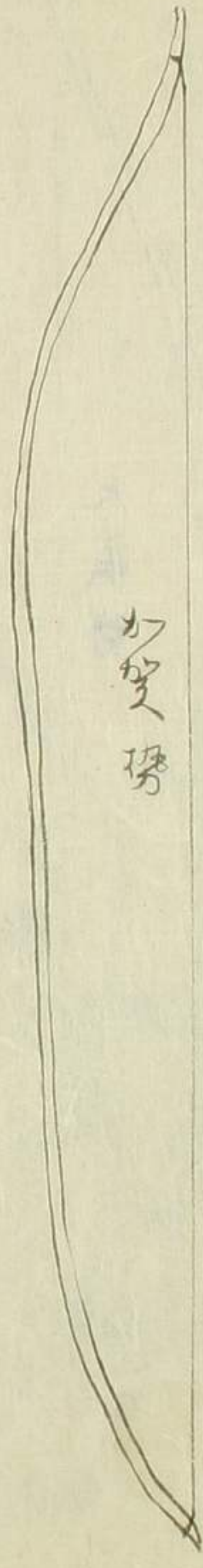
Handwritten label in Arabic script, possibly 'الحلقة' (Al-Halqa).



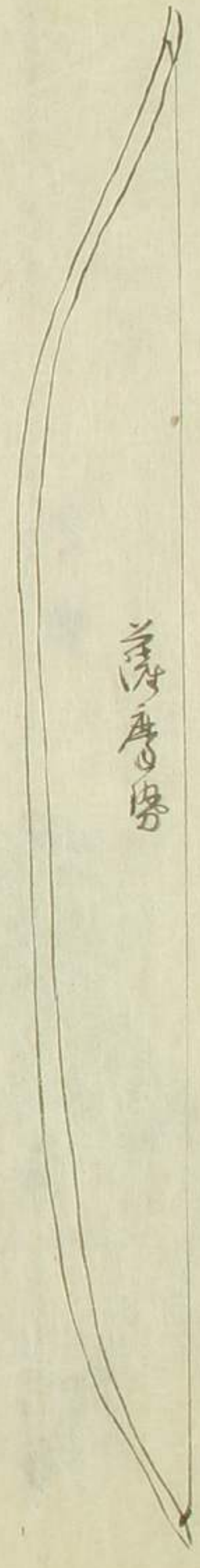
Handwritten label in Arabic script, possibly 'الحلقة' (Al-Halqa).



Handwritten label in Arabic script, possibly 'الحلقة' (Al-Halqa).

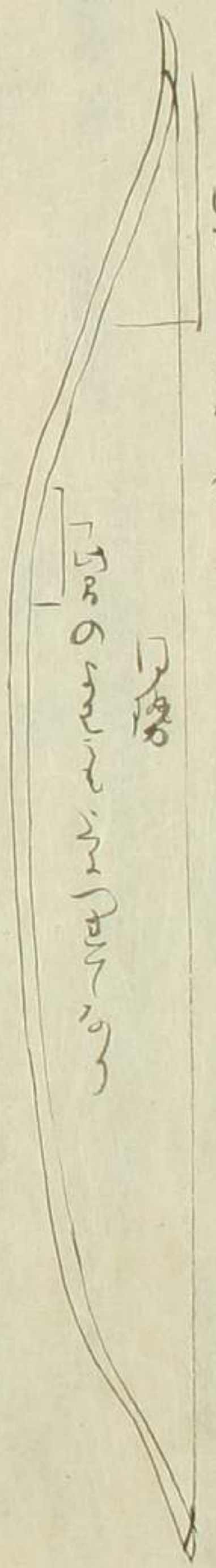


Handwritten label in Arabic script, possibly 'الحلقة' (Al-Halqa).

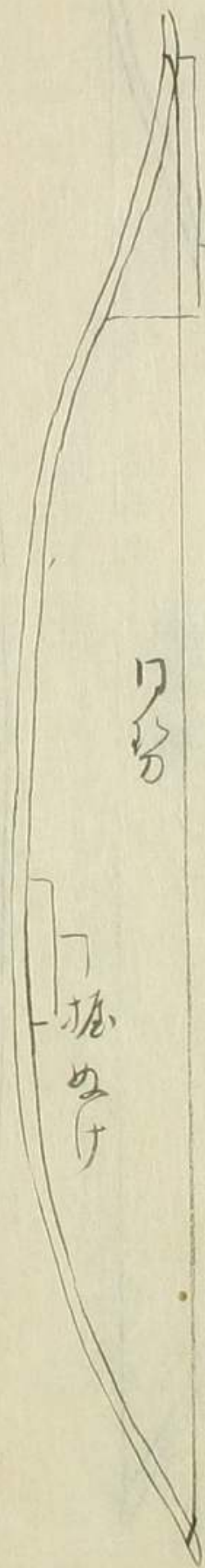


Handwritten label in Arabic script, possibly 'الحلقة' (Al-Halqa).

この考あり  
 いざやのあらとあいにいふはなるまわしきあら  
 むらうのむらうもあらも



この考あり

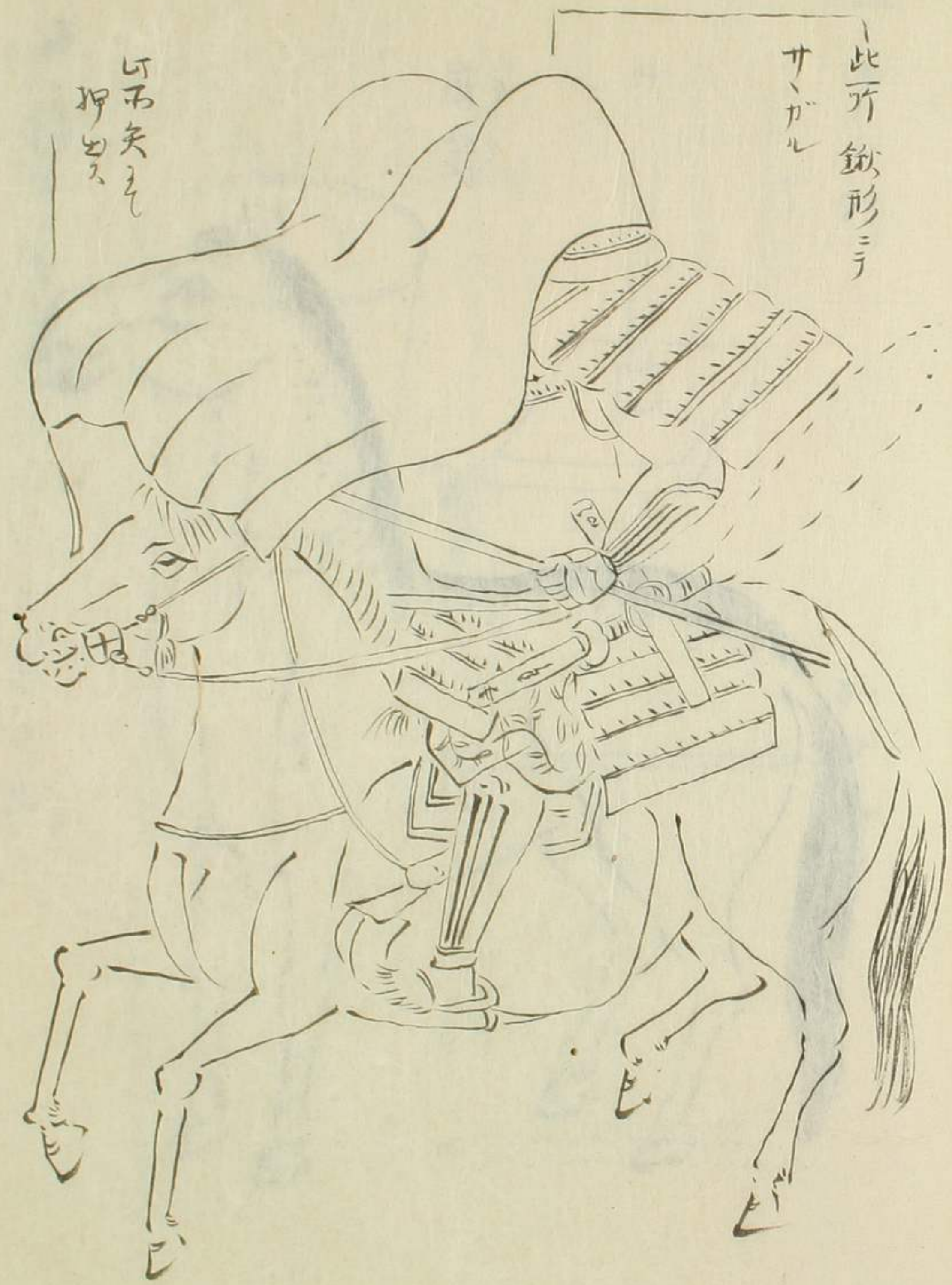


この考あり  
 いざやのあらとあいにいふはなるまわしきあら  
 むらうのむらうもあらも

### 一保呂

保呂ヲ以テ矢ヲ防クヘキ様ハ前ニ記ス如ク掛テ  
 ノ首上ノ緒ヲハ曹ニテモアレ肩ノ上ニテモアレ  
 結ニ付クルマヽニテ解スレテ置キ裾ヲ取テ提ゲ  
 後ヨリ曹ノ上ヲ折然シテ前へ被リ手ノ緒裾ノ緒ヲ  
 フ両方ノ鏡ノ保呂付ノ穴ニ結付ヘシ其穴ハ狭ク  
 緒ハ太キ故通り難シ依之以前ヨリ別ノ細キ緒ヲ  
 穴へ通シ輪ニ結ニ置キテ其輪ニ保呂ノ緒ヲ結ニ  
 付ヘシ左手ハ弓ヲ持ニ保呂ヲ内ニアルヘシ右手  
 ハ文ヲ一雙持テ矢ニテ保呂ヲ向ノ方へ押し出ス  
 へシ強ク引出シ保呂ノ引張ルヤウニスベカラズ

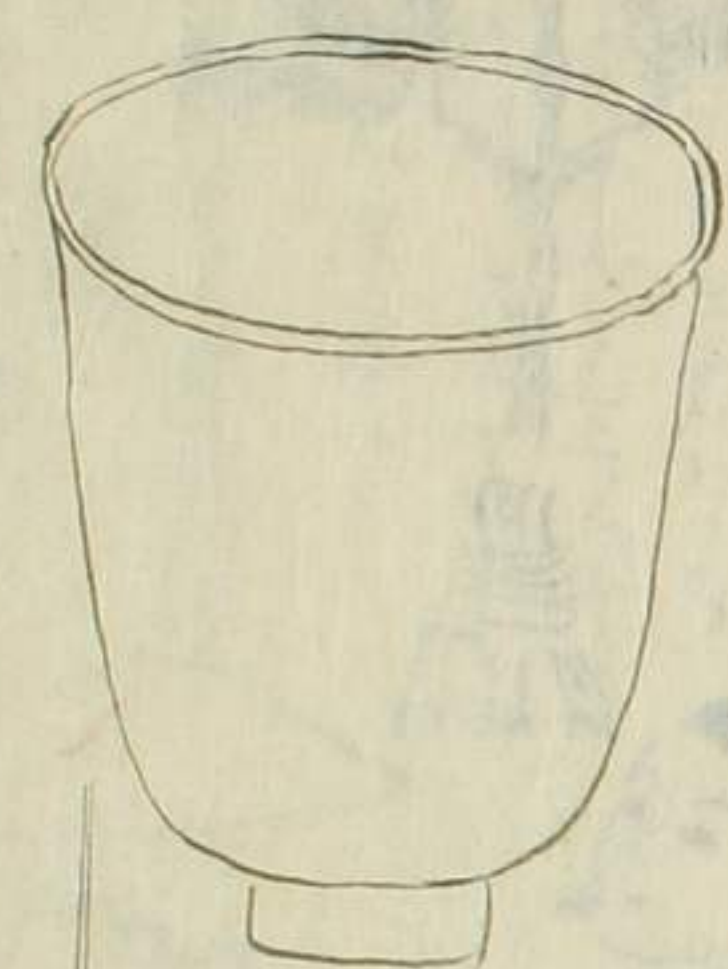
一躰フハフハトタルトアル様ニスヘシ又前ニ図シ  
 タル義家ノ保呂ノ如ク手ニ緒ナキ保呂ナラハ以  
 前ヨリ鑑ノホロ付ノ穴ニ長キ緒ヲ付ケタグリ置  
 テ保呂ヲ被ルトキタグリケル緒ヲ伸シテ保呂ノ  
 手ノ隅ヲ絞リテ結ヒ付ヘシ保呂ハ布生緒ホラ單  
 ニテ造ル故是ヲ被リタリトモ透キ徹リテ行先ノ  
 路モ能ク見分ルヘシ又曹ニ鉄形高角ホラキツ夏  
 ハ保呂ヲ被リタルトキ保呂ヲ棒ニ保呂ノ内ニ空  
 間ノ処アラシメンガ為ナルベシ保呂ヲ以テ矢ヲ  
 躰回ヲ作テ尾ニ記ス



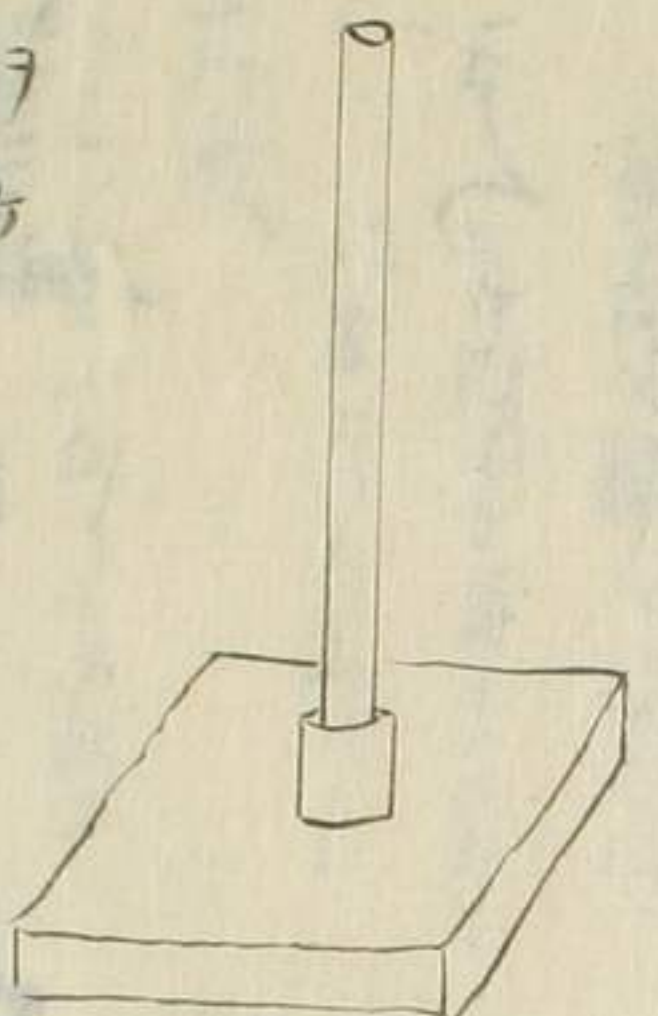
此所鉄形ニテ  
 サガレ

此所矢ヲ  
 押出ス

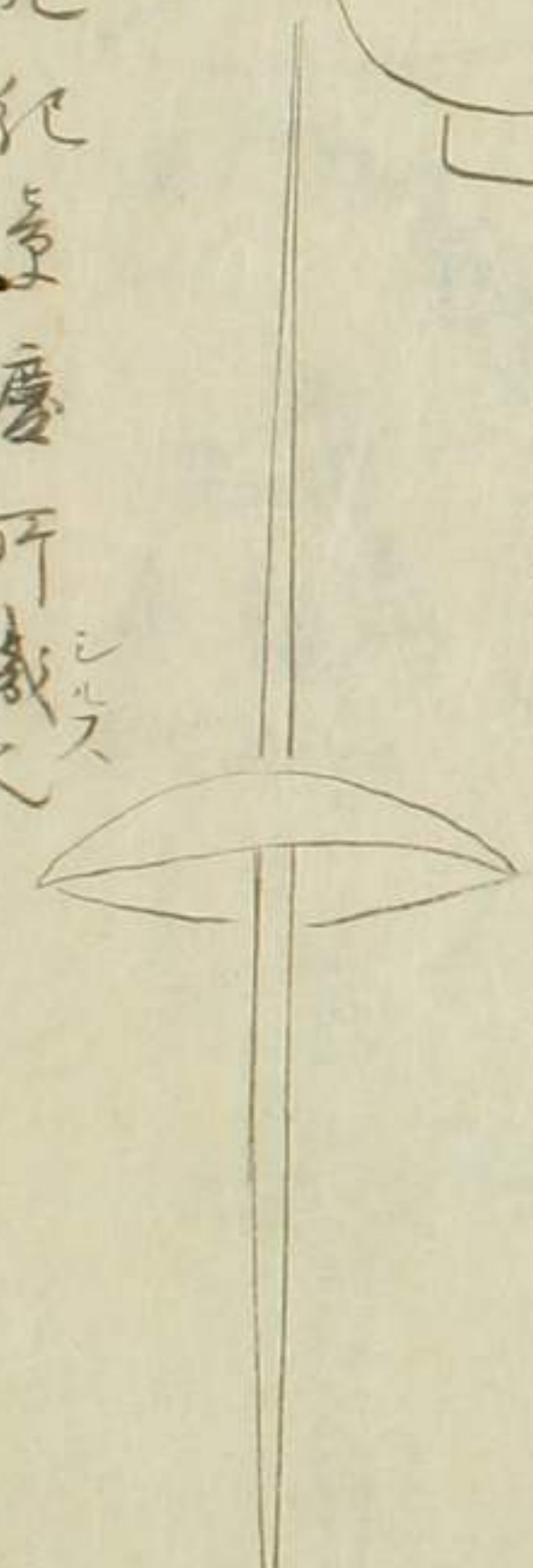
大行車官多從大允紀彙慶所藏之



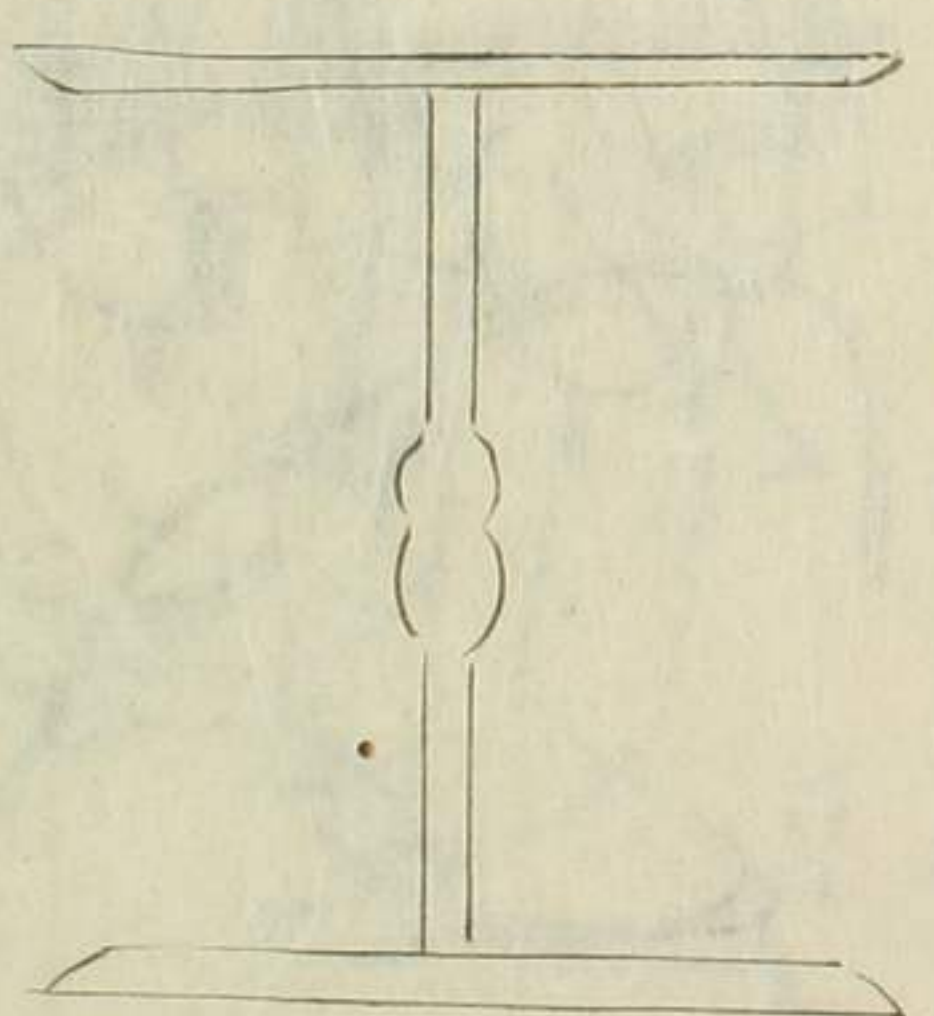
麻笏



一  
多  
利

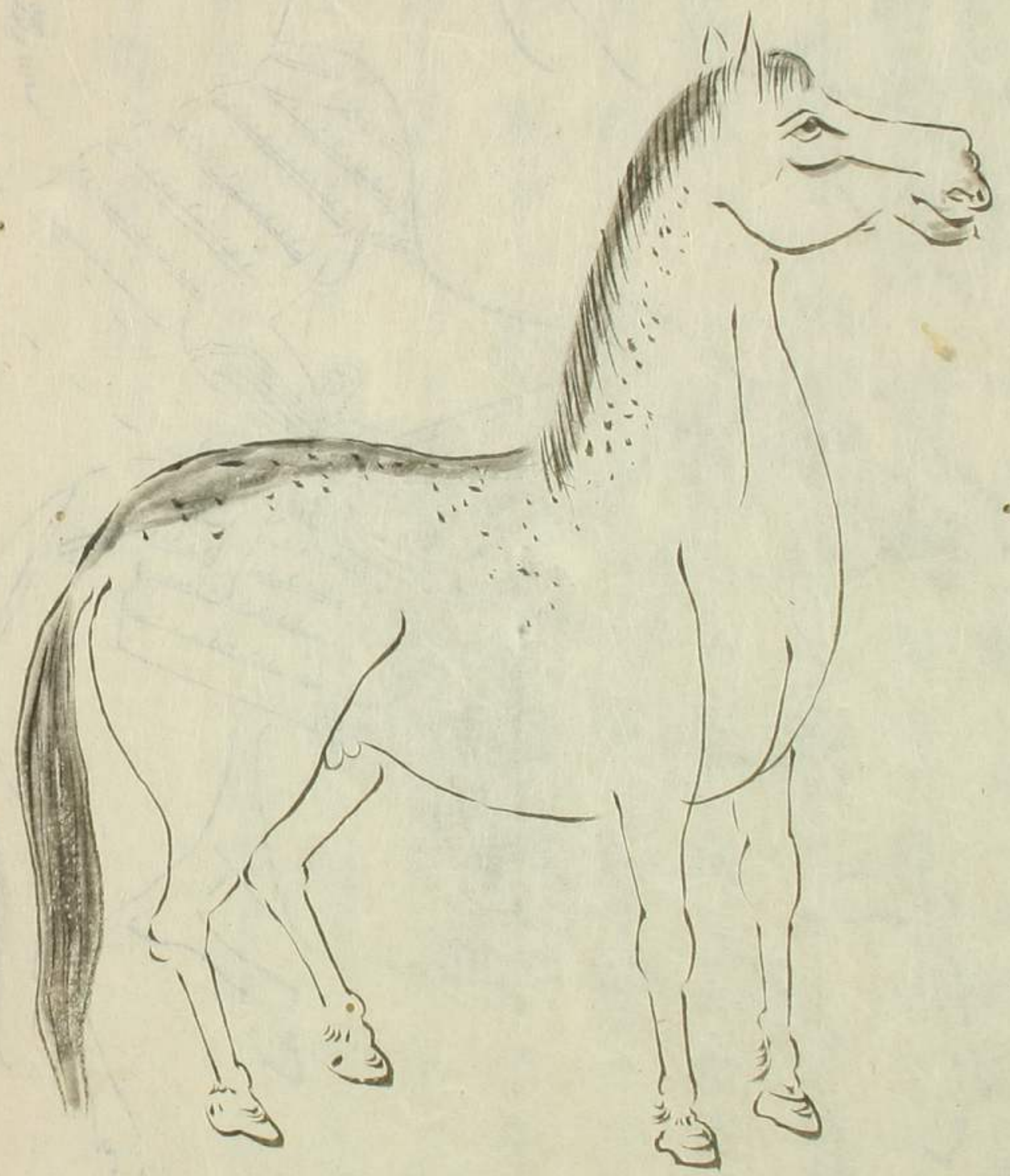


行



加  
世  
比

一  
馬  
毛





きりぎりす  
玉を動かす



一回 糸ヶ師の圖

良卷の御人 次合尾

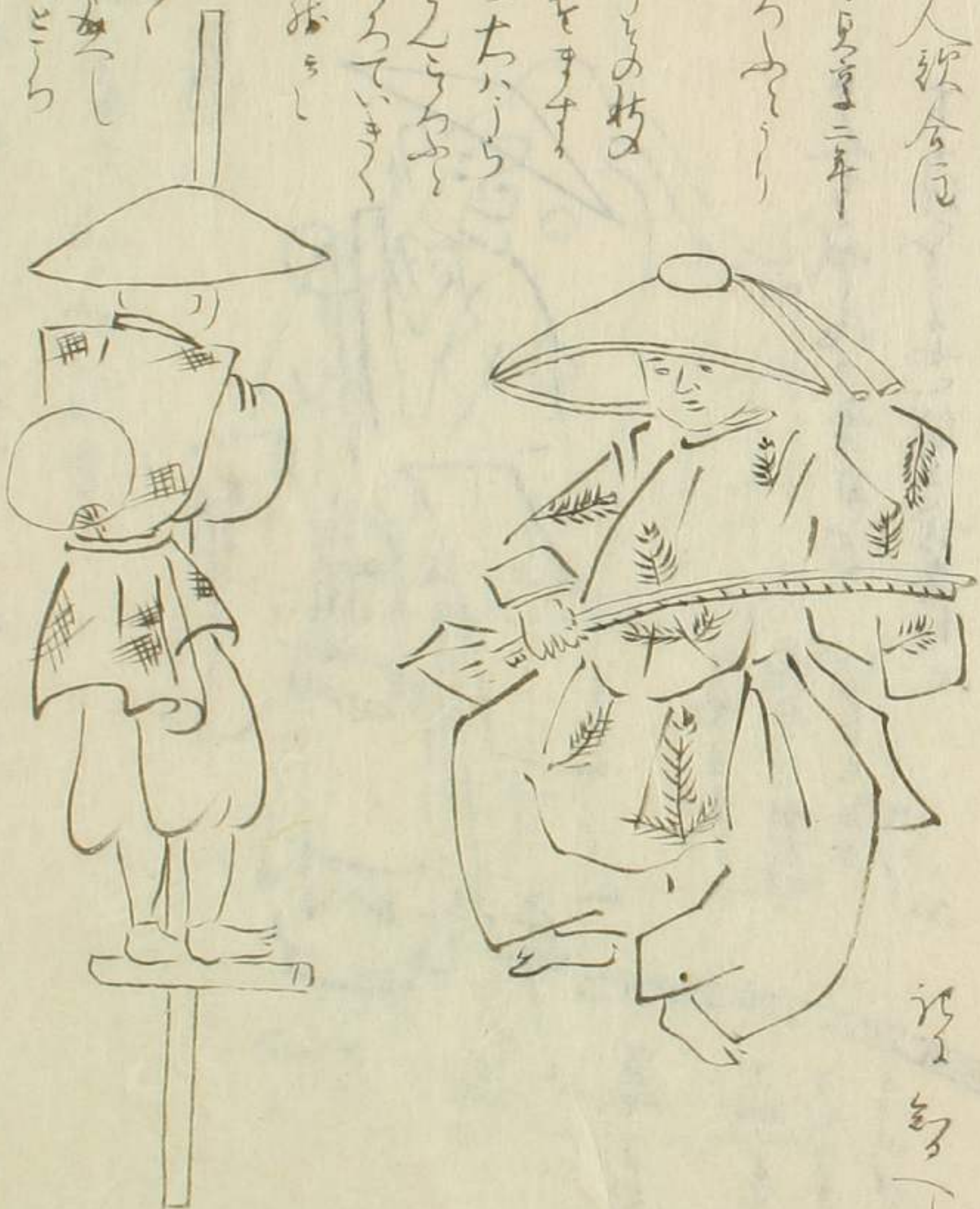
善川子 享享二年

日まこころや

大次

うらたきのあつとも枝  
夜もすく月をすす  
ふんてい列とたはら  
りとのもすくともや  
うらたきのあつとも  
うらたきのあつとも

揚りうらたき  
うらたきのあつとも  
うらたきのあつとも  
うらたきのあつとも  
うらたきのあつとも



甲子の慶のゆき左平

つぎ

一 弦賣

~~~~~

破のいしりの  
のい

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~



~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

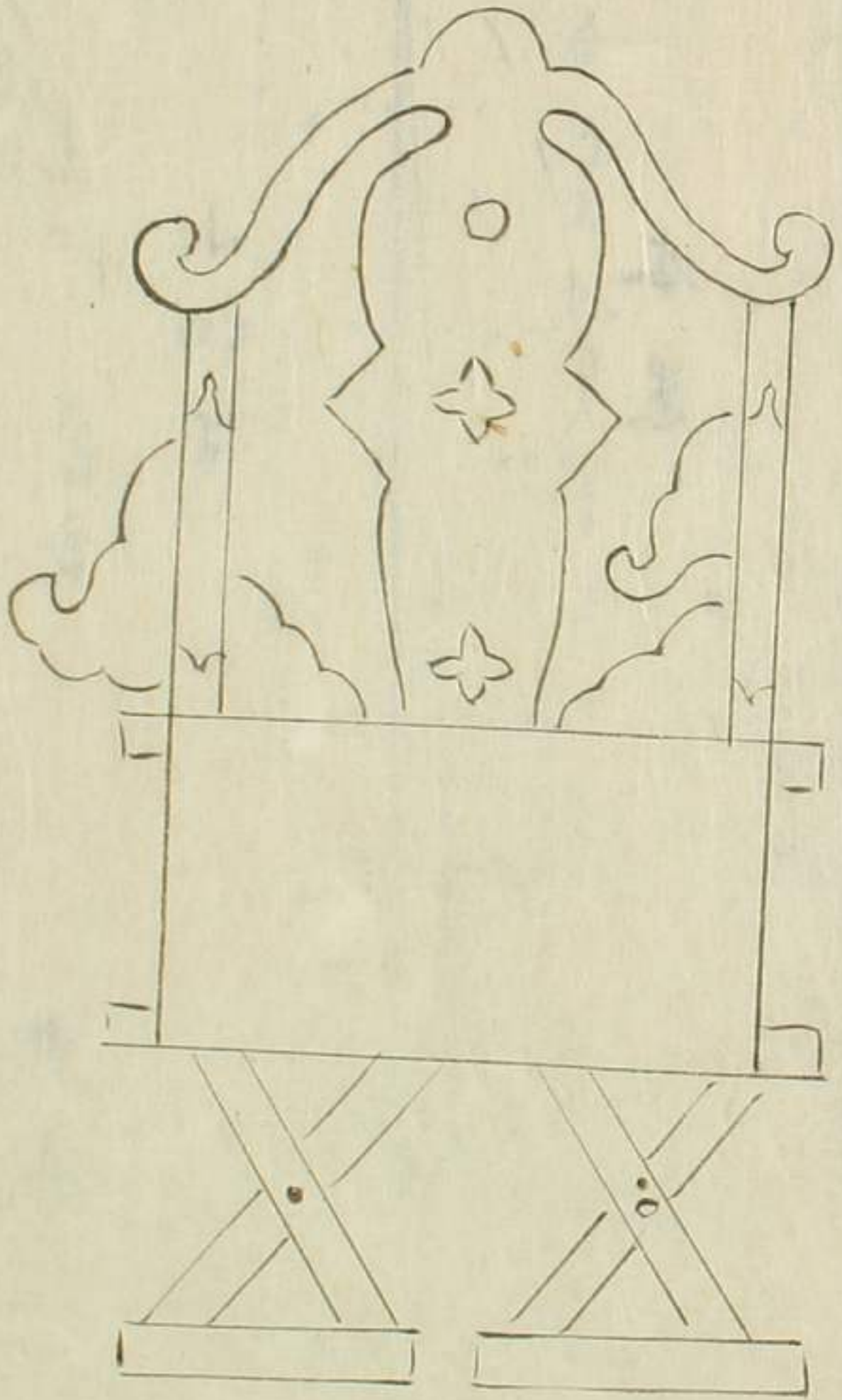
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~



~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

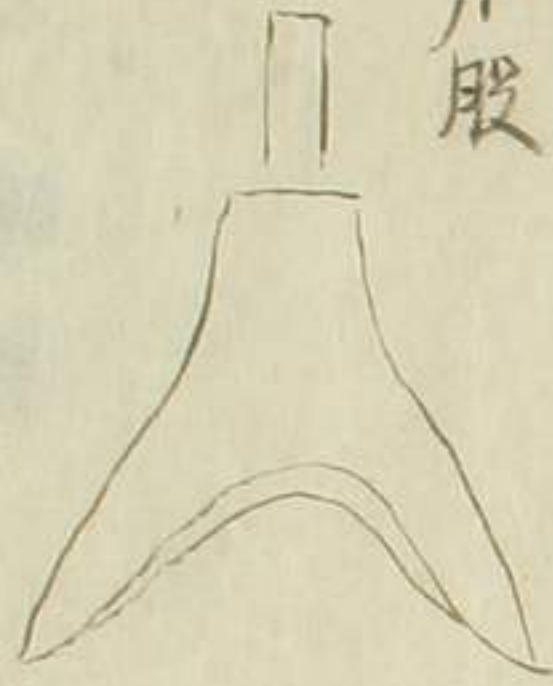
一曲 詠仕 几之圖



上ノミナ三人 詠仕

一 渡

雁股



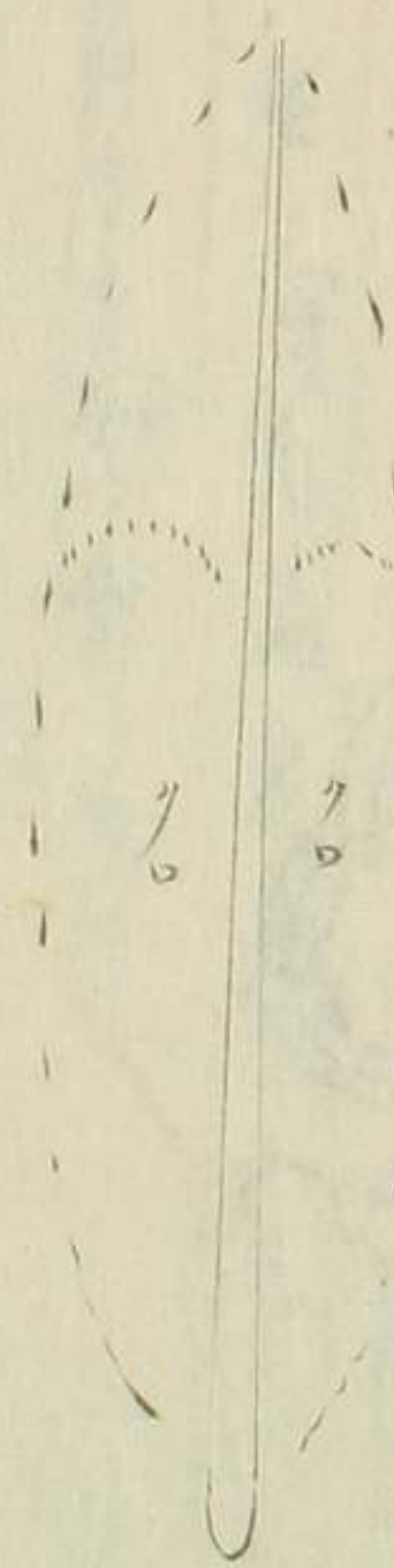
舌



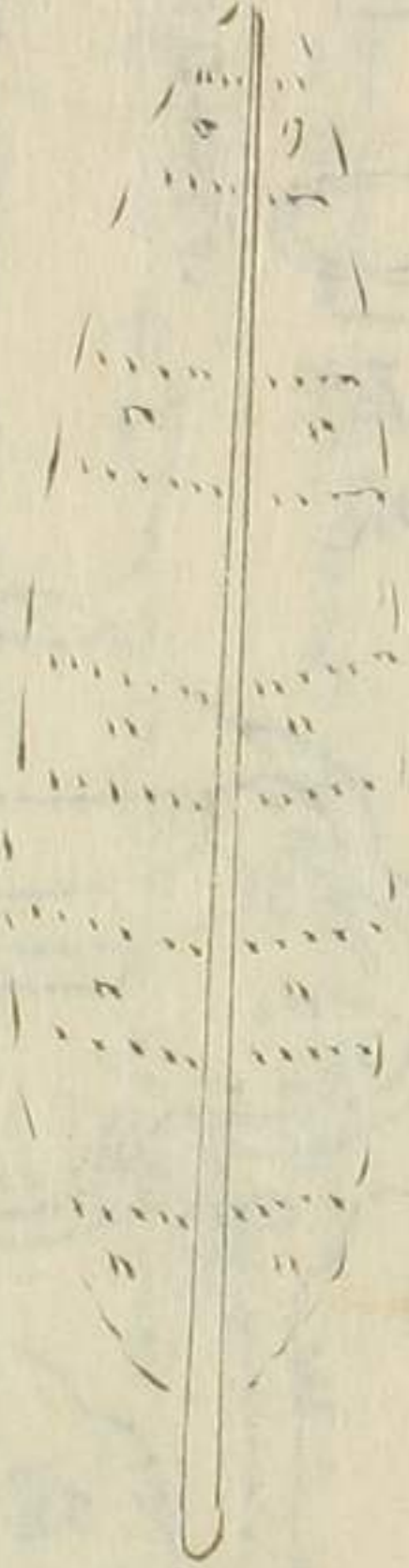
尾



白ウスベウ



大切生



一 糸の羽の糸

毒



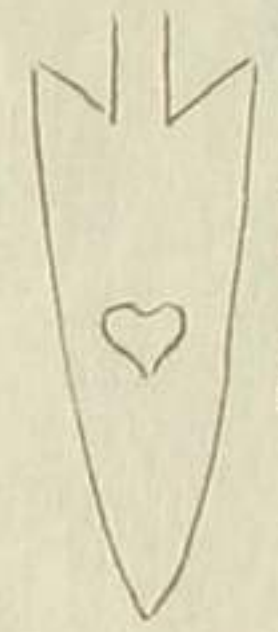
小切生



本



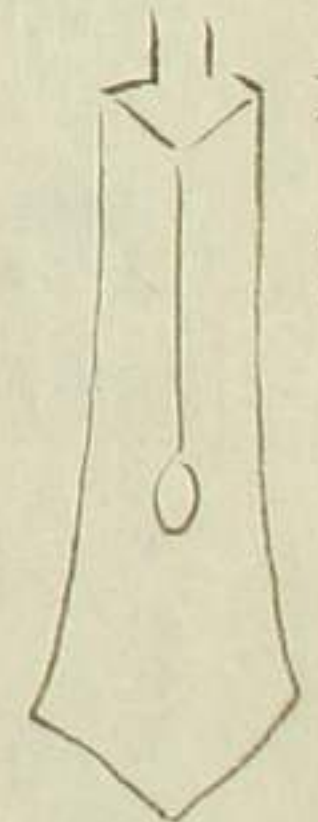
洋矢 脇籠



丸指



楯割



繫指



一 佛杯同左圖

新嘉坡

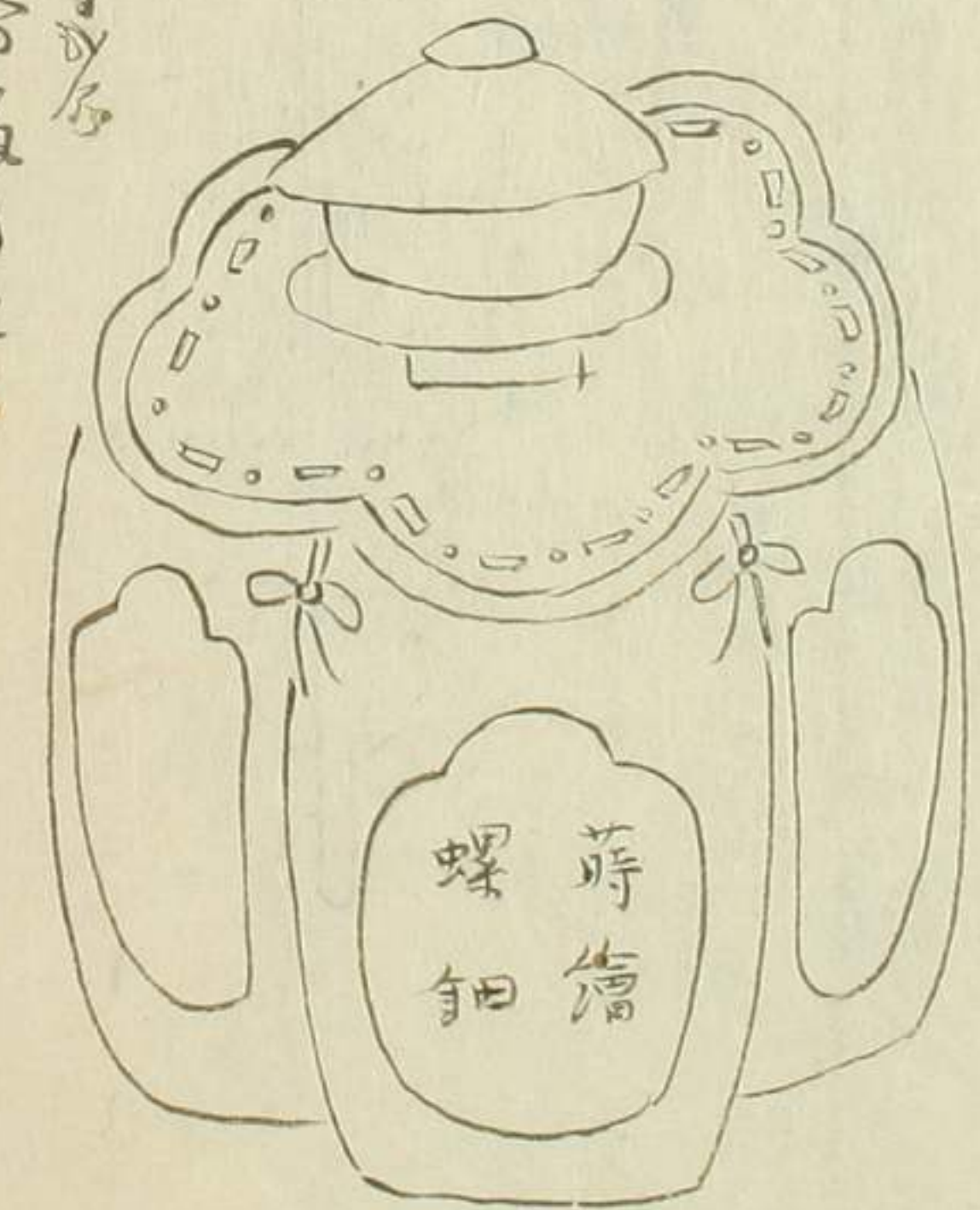
指籠



佛杯



尾端

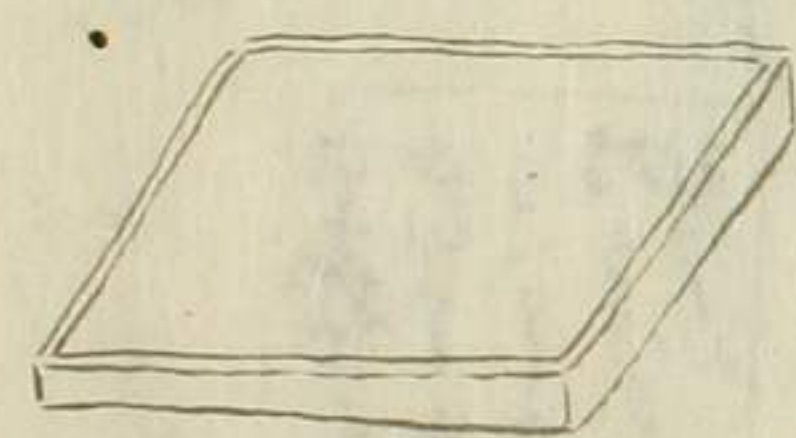


佛杯

尾端

如此他法... 佛杯... 螺鈿... 壽指... 尾端... 佛杯... 尾端... 佛杯... 尾端...

一 佛杯



佛杯... 螺鈿... 壽指... 尾端... 佛杯... 尾端...



一丈矢筒



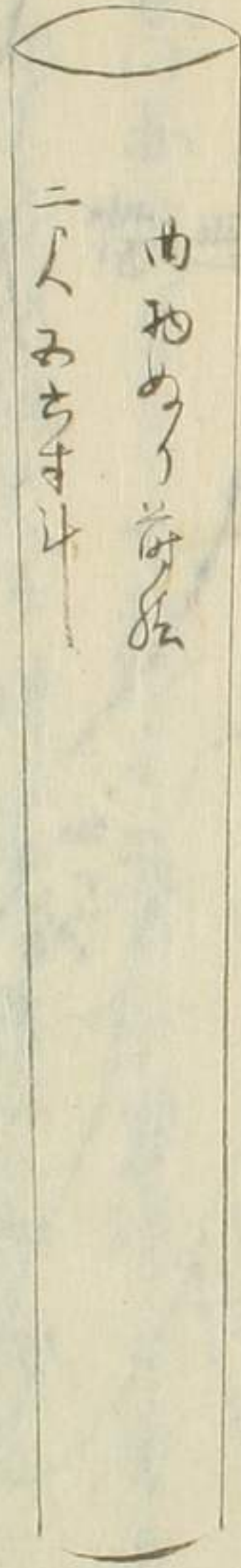
玉イカタ



後羽

派ノ如十文者ニシテコレニ火蓋ヲ火矢  
入テ依ニテク

管ノ羽隆ウムラク火ヲ射  
等ヲ俤狼楯ニサシヨシク



由也めく前  
二人みちすし  
おきつ何少頃とすれ

小使糸

之

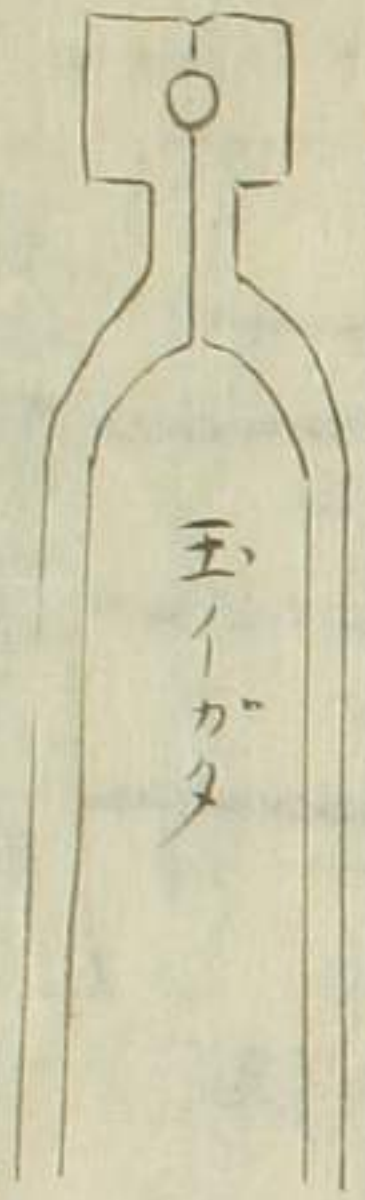
おきつ何少頃とすれ

由也めく前  
二人みちすし  
おきつ何少頃とすれ

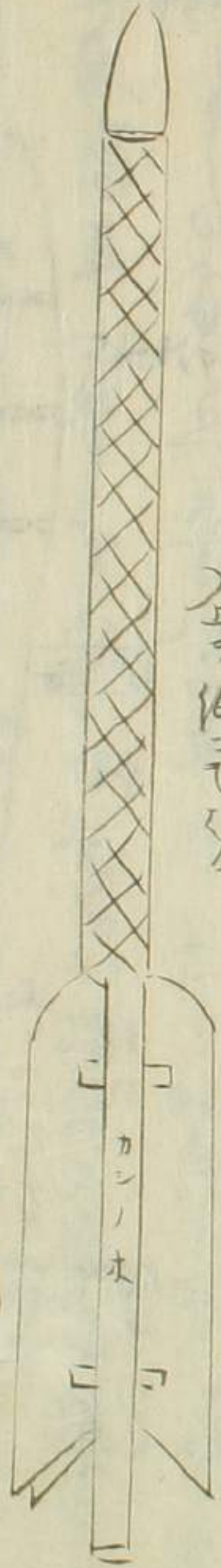


おきつ何少頃とすれ

一丈矢筒



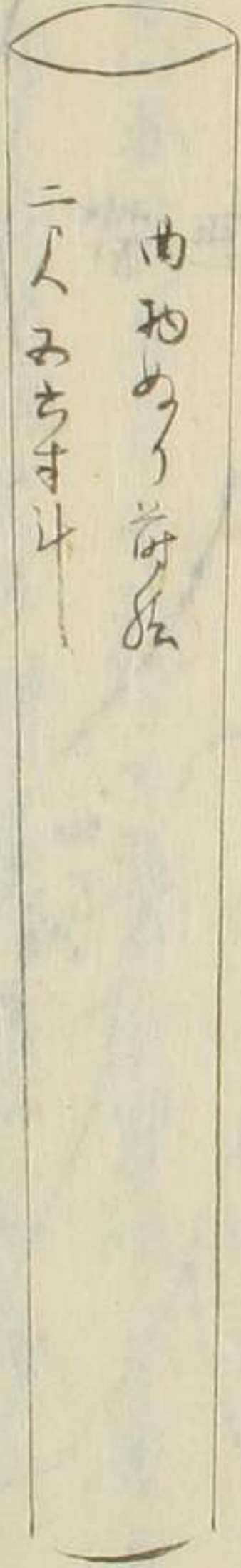
玉イカタ



後羽

後羽 羽隆ウムラク火ヲ射  
等ヲ佛狼楯ニサシヨシ

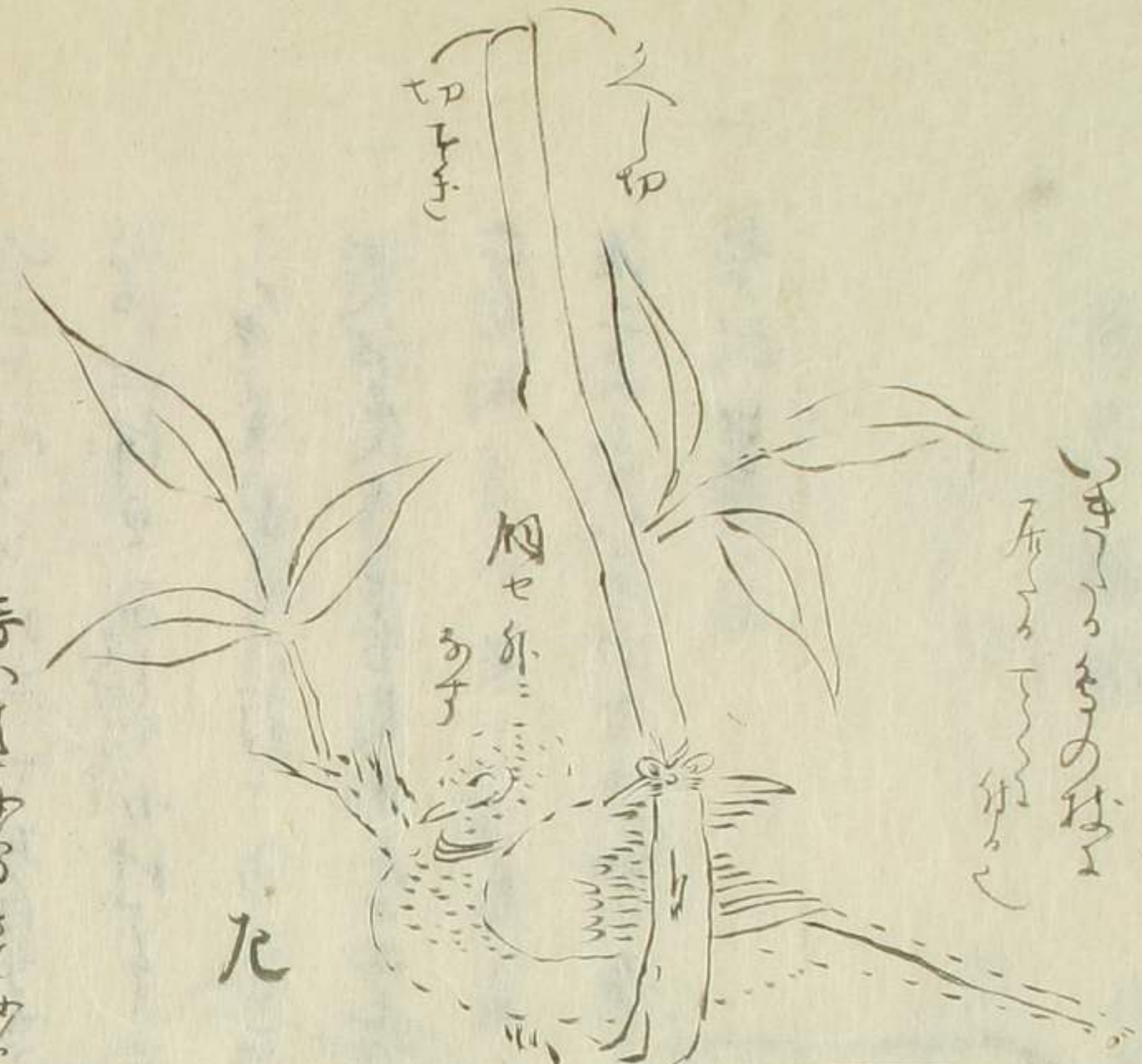
派ノ如ク文字ニミヅレニ火美ヲ火矢  
入上ラ依ニテ



由也めく前紙  
二人みちすし  
おきゆ何少頃とすれ

小使新あ

とす



くち  
切下  
あす  
煙セ外

春ハまきもさきもさきも黄板す  
これハ下ノふまきもさきも付くや  
男もさきもさきもさきも黄板す

丸

女男むこ

けおたらしの神  
おしよの山使  
る一ノノイ  
おきよの神  
あつ

ち



山儲くハヤ

是ハ新のしつ

尾のしつ

けちたにらひのり  
おしりもはた  
乃一平合は  
おろしは  
あつ

ち

女男むい  
今

を黄敷す  
し付くや  
ハ男を黄敷



山儲くくやあうはらら

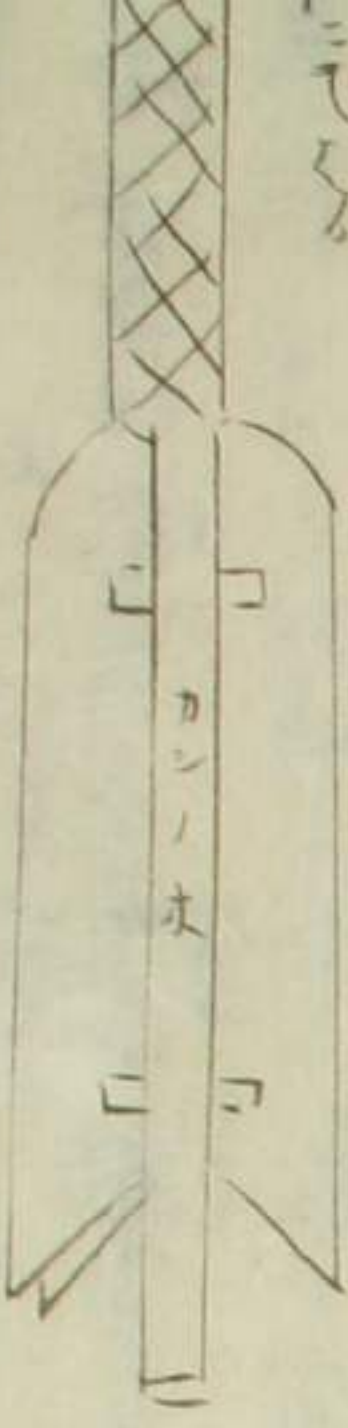
是は紙のひりすはひりす

尾の紙のひりすはひりす  
ひりすはひりすはひりす  
ひりすはひりすはひりす

小使系あり

すれ

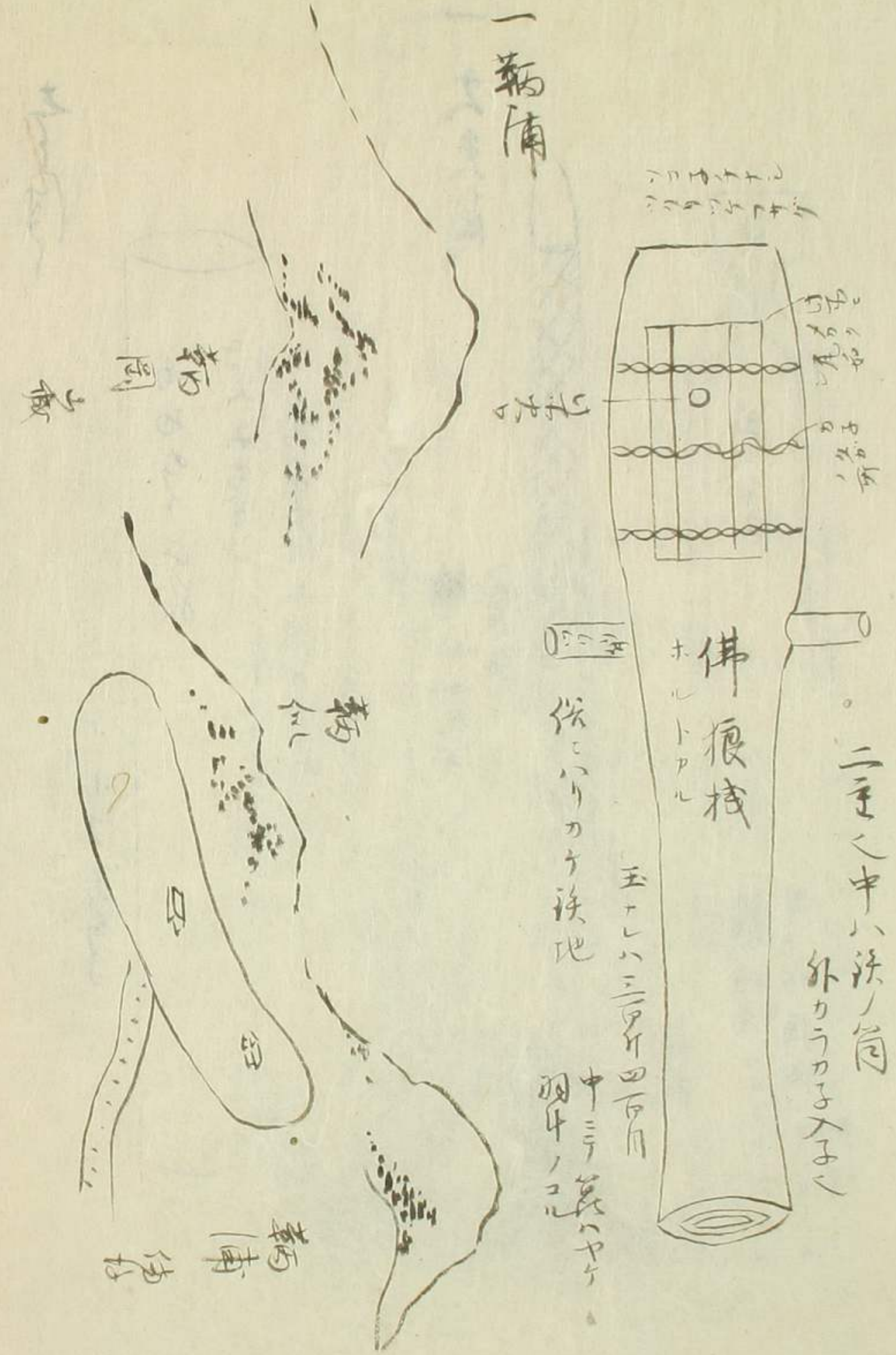
十文をミソコニ火美ラ火矢



後羽

鳥羽隆ウムク火ラ射  
等う佛狼城ニサニニチ

一 鞠備



二 玉の中ハ法ノ筒  
外ウラカ子入子

玉ハ三ノ四寸  
中ニテ長クヤケ  
羽ノコト

一 九万八千軍神

神ノ元文と唱へし書物も一海倉補陀寺の付物  
 平家ノ赤旗有し書物も九万八千軍神と書有るハ  
 所々見ゆ所ハ國史系神書九万八千軍神と名目  
 有る此年利井原好も在東の時吉田房一奉同吉田  
 房も出給し書物一池谷ノ貞夫考佛ノ書所十三  
 傳も有る一五万八千軍神と名目有る一  
 出家一書事一書物も有る也書物一切神ノ内ハ探り  
 有る一書物一書物も俗人容易ニ能く見ゆるハ  
 行つたんり一書物ノ文一覽之はたはた何の書  
 一書物も有る

酒井忠香銅片之旨 祀澤寺

之達より所傳九万八千軍神の事上りて今令ら別殿の  
處よりゆりて幸付うむむたき付道にさるく之達より  
書付内しり

本殿山末子殿木大保海寺行持院取法院

九万八千の夜叉神より三室若神の眷属之男より九位  
九万八千七百七十二神有りたると累して九万八千と云  
あり三室若神の三世三室若神より三夜叉の三世の他無  
業の付て来るか神あり人のあはれむの際難者  
皆荒神のつるなりまねる過去荒神と云ふは  
過去九万八千夜叉と掬はるは若神と云ふは江沢と

九万八千の夜叉と掬はるは若神と云ふは未  
九万八千の夜叉と掬はるは若神と云ふは未  
年と居て方と云ふは若神の眷属と云ふは

属と云ふは  
子孫伝承より化業と何もの神の傳りたるべき  
如き信作保よりいふ津けが若神も還て若神の如き  
ちりしきけ九万八千の夜叉と掬はるは若神の中に入りて  
支の力中よりいふは利支を云ふは頂より有りては  
ち後よりいふは南々九万八千未臨ち後九万八千一  
五萬附依然欲返敬徳如律令唱ふはけり

若神傳り眷属之出処河尋問三月大歴朝記奉

入 賢覽者

新延年及以端在六年ノ後十二月八日香山ヨリ  
出定アリ是ヲ成道トイフ是ヨリ四十餘年ノ説  
經ヲ端トイヘトモ其内ノ首ハヨク記ス

華嚴經 最初三七日 阿含經 十二年 方等經 八年

般若經 二十二年 法華經 溫般經 八年

是ヲ仏四十九年ノ説法ト云

諸佛ノ難部大小ノ諸經右ノ經中ニアリ依藏經

月派若明ナリ

荒神ノ未由ハ華嚴道場ニ捨テ初テ演説

玉ノ經ナリ九ニ其經ノ要又ヲ揚テ曰

即華嚴道場

昔王舍城ニ伽藍ヲ造立シテ諸ノ聖者ヲ安置ス

ルニ夜ニ伽藍ヲ震動メ行奏仏像ヲ破壊ス其時

諸仏聖者皆生疑惑時ニ舍利弗仏塔ノ側ニ坐メ

管見スルニ八面二臂ノ大惡念髻鬼形ノ者毎是

ノ眷屬ヲ率来テ如此破壞ヲ為ス聖者問曰汝ハ

是何者鬼王曰右是仏足三寶表靈神之名ヲ荒三

帝ト云又那行都作トモイヘリ聖者ノ曰汝何カ

故壞滅伽藍經卷耶鬼王曰不屏依我故ヘナリ鬼

王又云我一切众生ノ事業ヲ不祭我故九億九

万八千七百七十二神諸眷屬ヲ將テ世間ニ降下

而今亦如是破壞ス若又善地ヲ得ト欲セハ我



所島新島山あり毛色砂りいふま

一 保呂 島

保呂の地のいふは田安を有しいけは地をいふ

有徳後極ウ代 伊平をいふ所のいふは田安

一 西のいふは伊平村のいふは田安

乃し社を宮殿中よりいふは田安

ありていふは田安

そは田安のいふは田安

は田安のいふは田安

のいふは田安

十 大塚大物

一 大塚大物のいふは田安

大塚大物のいふは田安

有徳後極ウ代

代のいふは田安

大塚大物のいふは田安

大塚大物のいふは田安

大塚大物のいふは田安

大塚大物のいふは田安

天の二



一 治政記 文の目

南海の治政を撰ぶ所の故きを桂枝に西の尉資行三谷  
考の事尉資を片山と云ふ尉資の別と考ありし事  
形跡之毫の存しし文三年中の礼と云ふ事  
佐老の事存しし夜活の河を必傳と云ふ事

寛文三年癸卯春三月上陸 香西氏資行撰

お府番の細川家の四代として治政記細川家の事  
跡多し細川家の事 香西の事傳と云ふ事 見申す

記の口紙の事と云ふ事

小笠原流水引の事 色保アカートリなる事

徳和州自徳和の陰の内じしんしんも凡その事あり

ちくおとん

絵と成る。考案 豊後多の世に付る事 袂あり  
御と画き

この野記より人より云ふ事 同の事 馬の事あり  
女のありあり

アカトリノ事

治政記の文より云ふ事 考案 豊後多の世に付る事 袂あり

は繪と成る事 御と画き

の事 衣履の馬の行は 垢付く 尻と云ふ事 陰と云ふ事 仲事  
と云ふ事 考案 豊後多の世に付る事 袂あり  
一書やこれ 治政の一冊と云ふ事 一冊と云ふ事 馬工不詳 治政

一冊の始り 豊後多の世に付る事 袂あり

記も今世の人の記する書あればはるすまふしぬきも  
 水脈之巻の古来の記もあればえ物付と因せし人の記を  
 記しむるはるすまふしぬきも

正の考



中國大平記とて書と毛利氏之祖より元就輝之  
 外小平川吉川幸の事詳く記し古の史金部廿冊  
 外有るは他若誰人の記もあらずし書とて作  
 者の名記し有るは南阿波記より出る大久保氏  
 内記と記し有るは阿波記の書とて備のありの長  
 何人しるすやあがえし又小川ぬ赤巻る下とて  
 有るはぬ多アム靴の上とて色む池早とてあはる  
 記の中は太平記を長えわの記も記し有るはし  
 記しぬきもあはる何とて考あはるはる  
 一柳は元州小島とて負墜の事相模天皇皇都と  
 平島柳とて天下泰平國の事記の事とて記し有る



唐侍りま上戸多とて社振らくれし件の事も契下  
の信て際よりい方の少少は爾とて巻くてもう我と  
是と神あはるし門の物の使者も未しりして羽副とて  
去りてその師の太刀とありしものより主上所有の物と  
なして八人の大さきもの中より出づるものありしと  
名付りしは彼をばと苦執りてしるるがたけむる太刀も  
口く仏の副物とて申すも後の云はれし代とて  
大内へ付くしは我は遣へ將軍の賜しきりて又  
その所は留置したり今も其の物也此のそ  
違ふれどとて代りし思ふれども有りし物りたりと  
そと獨り幸う心と願うて天下の敵義の仇討し侍候て

追月向後 侍りしと云ふ人勇と云ふ事と有りし也

古本古平記 巻下見

平年譜 巻下見

一 徳世

宝町殿日記

平假名モノ  
榎村長教撰

万松院殿の末より之は院殿をて其の吉付候しもの物也  
常陸院殿にほつ院殿の例とてしるしを徳世と云ふ

徳世 城列

一 傍候 傍候の事

一 於此 其の事

一 後 有し候者

廿四ヶ月

十一ヶ月

一 仁皇降臨の太宗書に於て 十二月

一 皇朝の御治を奉るは神文の如く是を有し於出列年

者有る信後日あり奉

有るは信後日あり奉  
遠祖の族に於て其曲の如く是の如く信也何

不列也件

天文九年

三月十日

之後

負也

長也

五列

校

一 今乃ち其除徳也少を存し有るは信也何れ奉

一 本朝の如く押也を信也何れ奉

一 其の如く命也其通也其奉也其命也其命也其命也

一 其の如く命也其通也其奉也其命也其命也其命也

一 何れも其命也其通也其奉也其命也其命也其命也

一 科是二百文下其命也其通也其奉也其命也其命也其命也

月日

在列也何

有るは信後日あり奉

一 其の如く命也其通也其奉也其命也其命也其命也  
其の如く命也其通也其奉也其命也其命也其命也

Handwritten text in Arabic script, top line.

Handwritten text in Arabic script, second line.

Handwritten text in Arabic script, third line.

Handwritten text in Arabic script, fourth line.

Handwritten text in Arabic script, fifth line.

Handwritten text in Arabic script, sixth line.

Handwritten text in Arabic script, seventh line.

Handwritten text in Arabic script, eighth line.

Handwritten text in Arabic script, ninth line.

Handwritten text in Arabic script, tenth line.

Handwritten text in Arabic script, eleventh line.

Handwritten text in Arabic script, twelfth line.

Handwritten text in Arabic script, thirteenth line.

Handwritten text in Arabic script, top line of the second page.

Handwritten text in Arabic script, second line of the second page.

Handwritten text in Arabic script, third line of the second page.

Handwritten text in Arabic script, fourth line of the second page.

Handwritten text in Arabic script, fifth line of the second page.

Handwritten text in Arabic script, sixth line of the second page.

Handwritten text in Arabic script, seventh line of the second page.

Handwritten text in Arabic script, eighth line of the second page.

Handwritten text in Arabic script, ninth line of the second page.

Handwritten text in Arabic script, tenth line of the second page.

Handwritten text in Arabic script, eleventh line of the second page.

Handwritten text in Arabic script, twelfth line of the second page.

一 山三乃少地

山三乃少地

山三乃少地

山三乃少地

山三乃少地

山三乃少地

山三乃少地

山三乃少地

山三乃少地

山三乃少地

幡后十様

幡后十様

幡后十様

幡后十様

幡后十様

幡后十様

176  
6  
5

*[Faint, illegible handwriting on the right page]*



